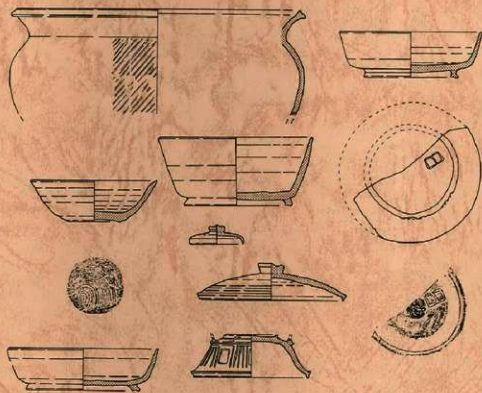


中之条遺跡群

寺浦遺跡Ⅳ

—長野県埴科郡坂城町(株)しまむら店舗建設事業に係る緊急発掘調査報告書—



2010.3

株式会社しまむら
坂城町教育委員会

中之条遺跡群
寺浦遺跡Ⅳ

—長野県埴科郡坂城町(株)しまむら店舗建設事業に係る緊急発掘調査報告書—

2010.3

株式会社しまむら
坂城町教育委員会



寺瀬遺跡Ⅳ（上空より）



寺浦遺跡Ⅳ（南西より）



寺浦遺跡Ⅳ（北西より）

序

坂城町教育委員会教育長 長谷川 臣

今回発掘調査を実施した寺浦遺跡は、坂城町大字中之条を西に流下する御堂川によって形成された扇状地のほぼ扇尖部に立地しています。本遺跡を包括する中之条遺跡群では、かつての発掘調査で縄文時代～平安時代の集落址が確認されています。南側に隣接する町横尾遺跡では縄文時代から平安時代の集落遺跡が発掘調査されました。また、さらに南側には金井東遺跡群が広がっており、同遺跡群の中で最大の遺跡である保地遺跡では縄文時代後・晩期の遺構や遺物が多く発見され注目を集めました。このように、今回の発掘調査地点は坂城町の中でも特に遺跡の多く存在する場所です。







今回の発掘調査では、奈良時代～平安時代の住居址、掘立柱建物址が発見されました。8棟調査された竪穴住居址からは、豊富な土器群が出土しました。これらは、煮炊き用の「土師器甕」、貯蔵用の「須恵器甕」、配膳に供する土師器や須恵器の「坏」など、生活に必要な土器類が一そろいになっていました。また、円面硯や転用硯、文字の刻まれた土器など、「書」にまつわる遺物も多く出土しました。このことや、掘立柱建物が周辺を含め数多く建てられていたことから、地域の中心的な施設であったことがあらためて確認されました。

最後に寺浦遺跡Ⅳの発掘調査は、土中に眠る文化遺産の重要性を理解していただいた関係者の皆様方のご支援とご協力によって行うことができました。厚く御礼申し上げます。また、現地において作業にあられた皆様には、夏の暑い中、献身的な努力と、古代文化解明へのゆるぎない情熱によって、調査を無事終了させていただいたことを感謝いたします。さらに、関係機関、関係各位には、文化財保護行政の本旨をご理解くださり、ご協力いただきましたことに心から御礼を申し上げ、序文とさせていただきます。

例 言

- 1 本書は、長野県埴科郡坂城町寺浦遺跡Ⅳの発掘調査の報告書である。
- 2 寺浦遺跡Ⅳの発掘調査は、(株)しまむらより委託を受け、坂城町教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査所在地及び面積
寺浦遺跡Ⅳ 長野県埴科郡坂城町大字中之条字寺浦1145ほか、約1,861㎡
- 4 調査期間 現地調査 平成21年5月20日～平成21年7月18日
整理調査 平成21年7月21日～平成21年2月5日
- 5 本書の執筆・編集は、赤池・時信が行った。
- 6 本書の作成にあたり、赤池・時信のほか、朝倉、天田、坂巻、萩野が主な作業を行った。
- 7 本書で使用した航空写真は、株式会社写真測図研究所が撮影したものである。
- 8 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。
- 9 本調査及び本書作成にあたって、下記の方々や機関から御配慮を得た。記して感謝の意を表したい。
(敬称略、五十音順)
(社)更埴地域シルバー人材センター

凡 例

- 1 遺構の略号は、下記のとおりである。
SH→竪穴住居址 ST→掘立柱建物址 SK→土坑址 Q→特殊遺構 P→ピット
- 2 遺構名は、時代別ではなく発掘調査時における命名順である。
- 3 本書に掲載した実測図の縮尺は該当箇所のスケールの上に記した。
- 4 挿図中におけるスクリーントーンは、下記を示す。
遺構 →地山 →焼土 →カマド
遺物 →須臾器断面 →黒色処理範囲 →磨滅範囲・漆付着範囲
- 5 遺物の挿図中での表記は、第1図1は、簡易的に1-1と表記した。
- 6 土層の色調は『新版 標準土色帖』の記載に基づいている。
- 7 出土遺物の観察表の法量は、口径・底径・器高の順に記載し、-は不明、()が残存値、< >が推定値、()・< >がない場合は完存値を示し、単位はcmである。

目 次

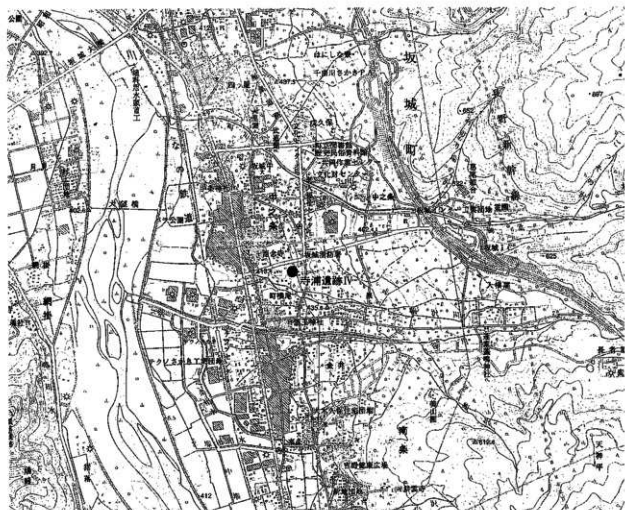
序	
例 言	
凡 例	
第 I 章 発掘調査の経緯	1
第 1 節 発掘調査に至る動機と経緯	1
第 2 節 調査の構成	2
第 3 節 調査日誌	2
第 II 章 遺跡の立地と環境	3
第 1 節 地理的環境	3
第 2 節 歴史的環境	3
第 III 章 調査の概要	7
第 1 節 調査の方法	7
第 2 節 基本層序	8
第 3 節 検出された遺構・遺物	8
第 IV 章 調査の結果	11
第 1 節 竪穴住居址	11
第 2 節 土坑址	34
第 3 節 その他の遺構・遺物	46
掲載土器観察表	49
掲載鉄器・石器観察表	52
第 V 章 総括	53
写真図版	55
報告書抄録	

第I章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至る動機と経緯

寺浦遺跡は、坂城町大字中之条に所在し、標高420m前後を測る御堂川によって形成された扇状地の扇中部に位置している。平成元年度に作成された『坂城町遺跡分布図』によると、縄文～平安時代の集落址とされているが、同遺跡隣接地に戦国時代の国人領主村上義清の子にあたる村上景国が拠ったとされる観音坂城跡も存在しており、関連する中世の遺構の存在が予想されるなど、原始～中世の遺跡である可能性が高い。平成5・6年度に実施された高速道路関連道路改良事業にともなう発掘調査及び平成6年度に実施された坂城消防署建設事業に伴う発掘調査によって、古代に位置づけられる集落址が判明している。

今回、この地に株式会社しまむらによる店舗新築が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じた。そのため、原因者である株式会社しまむらと遺跡の保護措置について協議を行ったところ、試掘調査を実施して遺跡の状況を確認することとなり、平成20年12月18～24日に試掘調査を実施した。開発対象地に2本のトレンチを設定して遺構・遺物の確認を行った結果、2箇所の特レンチで遺構が検出された。遺構は開発対象地の南側に集中する傾向が見えた。この結果を基に再度協議した結果、店舗建設部分と調整池造成部分に関しては発掘調査を実施し、遺跡を記録保存することとなった。



第1図 寺浦遺跡IV位置図 (1:25,000)

第2節 調査の構成

発掘調査体制

- 調査担当者 赤池利博（文化財センター所長）、時信武史（坂城町教育委員会学芸員）
調査補助員 朝倉妙子、坂巻ケン子（以上、町臨時職員）
調査協力員 太田武夫、佐藤司、竹内佳男、塚田義勝（以上、更埴地域シルバー人材センター）

整理調査体制

- 調査担当者 時信武史
調査補助員 朝倉妙子、天田澄子、坂巻ケン子、萩野れい子（以上、町臨時職員）

（事務局）

- 教育長 長谷川臣
教育文化課長 塚田好一
文化財センター所長 赤池利博
文化財係 時信武史
中沢あつみ、山岸紀美子

第3節 調査日誌

発掘調査

- 平成21年5月20日 発掘調査開始。重機による表土剥ぎ開始。
平成21年5月25日 遺構検出開始。
平成21年6月5日 表土剥ぎ終了。
平成21年6月8日 遺構掘り下げ開始。
平成21年7月1日 遺構掘り下げ終了。
平成21年7月2日 遺構実測終了。
平成21年7月3日 航空写真撮影。
平成21年7月8日 埋め戻し開始。
平成21年7月18日 埋め戻し終了。

平成21年度中整理作業及び報告書作成。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接点にあり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的にふれておきたい。（括弧内の数字は5、6ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の土ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には込山D遺跡に槍先型尖頭器の出土があるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押型文系の土器片が少量出土しているが、これらは現在整理中である。その他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の検出が『考古学雑誌』に報告されている（関 1966）。後者については、縄文時代晩期に位置づけられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された遮光器土偶の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区の仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土品から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置づけられた（若林1999）。後期古墳では、町内でいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。埋葬施設に千曲川水系最大級の横穴式石室を持ち、

全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落址は町内においても多く検出され、特に環状に土器が配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡（1-8）が目される。奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、豊饒堂遺跡（20）、開飲遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窯跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法廃寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区の清泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡（44）がある。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚（55）をはじめとする経塚と中之条地区の開飲製鉄遺跡（53）がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置づけられている（若林1999）。開飲製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置づけられるものであった。

江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが看取される。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1779）には中之条に代官所が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概略した。

注1 周知の御堂川古墳群東平文群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

参考文献（五十音順・敬称略）

- 坂城町教育委員会 1978『開飲製鉄遺跡第一号調査報告』1979『開飲製鉄遺跡第一号2次調査報告』1983『宮上遺跡Ⅱ』1995『東原遺跡』1996『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺裏遺跡・東町遺跡』1996『寺浦遺跡Ⅱ』2000『開飲遺跡Ⅲ』2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』2002『保地遺跡Ⅱ』
- 岡 孝一 1966『長野県埴科郡保地遺跡発掘調査概報』『考古学雑誌』第51巻第3号
- 壽崎 登ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編（一）
- 柳沢 亮 1998『第5巻 開飲遺跡』『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ』（財）長野県埋蔵文化財センター
- 若林 卓 1999『第9巻 東平古墳群』『第11巻 観音平経塚』『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ』（財）長野県埋蔵文化財センター



坂城市遺跡分布図

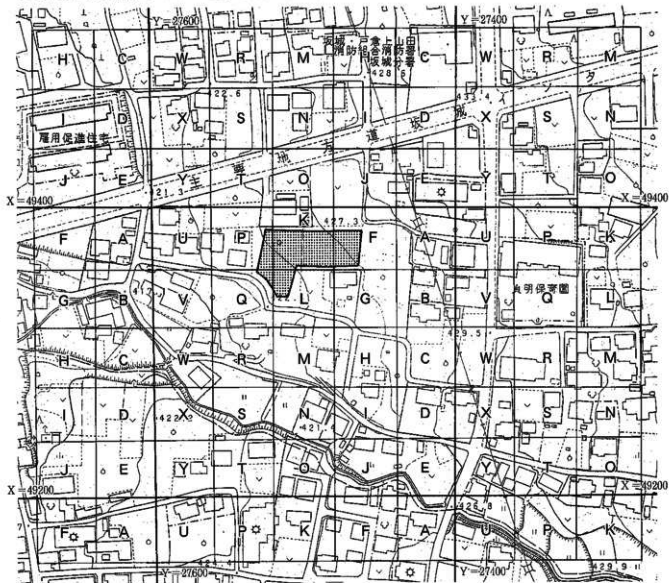
図面番号	遺跡名	種別	時代	図面番号	遺跡名	種別	時代
1	南島遺跡群	集落址	弥生~平安	34	船形塚跡	塚跡	平安
-1	南島遺跡群 南島遺跡	集落址	弥生~平安	35	平字遺跡群	集落址	平安
-2	南島遺跡群 船形塚跡 (船形)	集落址	弥生~平安	36	中平遺跡群	集落址	平安
-3	南島遺跡群 百ヶ谷村遺跡	集落址	弥生~平安	-1	船形遺跡群 船形中遺跡	集落址	弥生~平安
-4	南島遺跡群 中平遺跡群 (船形)	集落址	弥生~平安	-2	船形遺跡群 船形中遺跡	集落址	弥生~平安
-5	南島遺跡群 船形中遺跡群	集落址	弥生~平安	-3	船形遺跡群 船形中遺跡	集落址	平安
-6	南島遺跡群 船形中遺跡群	集落址	弥生~平安	37	北山山頂遺跡	集落址	古墳 (後継)
-7	南島遺跡群 船形中遺跡群 (船形)	集落址	弥生~平安	38	柱石遺跡群	集落址	後継
-8	南島遺跡群 船形中遺跡群	集落址	弥生~平安	39	高石遺跡群	集落址	平安
-9	金井高遺跡群 金井高遺跡	集落址	弥生~平安	40	春日野遺跡	塚跡	古墳 (後継)
-1	金井高遺跡群 金井高遺跡	集落址	弥生~平安	41	北山山頂遺跡群	集落址	古墳 (後継)
-2	金井高遺跡群 船形塚跡 (金井高)	集落址	弥生~平安	42	北山山頂遺跡群	集落址	古墳 (後継)
-3	金井高遺跡群 船形塚跡	集落址	弥生~平安	-1	北山山頂遺跡群	集落址	古墳 (後継)
3	金井高遺跡群	集落址	弥生~平安	43	北山山頂遺跡群	集落址	古墳 (後継)
-1	金井高遺跡群 船形塚跡	集落址	弥生~平安	44	白尾塚跡	塚跡	古墳 (後継)
-2	金井高遺跡群 山崎井遺跡	集落址	弥生~平安	45	出流沢古墳群	古墳	古墳 (後継)
-3	金井高遺跡群 大木久保遺跡 (南高小学校敷地)	集落址	弥生~平安	-1	出流沢古墳群	出流沢第1号墳	古墳 (後継)
-4	金井高遺跡群 南島遺跡	集落址	弥生~平安	-2	出流沢古墳群	出流沢第2号墳	古墳 (後継)
4	南ヶ谷遺跡	塚跡	古墳	-3	出流沢古墳群	出流沢第3号墳	古墳 (後継)
5	社宮神社跡	神社跡	古墳	-4	出流沢古墳群	出流沢第4号墳	古墳 (後継)
6	南島神社跡	神社跡	古墳	-5	出流沢古墳群	出流沢第5号墳	古墳 (後継)
7	北山山頂	集落址	弥生~平安	-6	出流沢古墳群	出流沢第6号墳	古墳 (後継)
8	中之島遺跡群	集落址	弥生~平安	-7	出流沢古墳群	出流沢第7号墳	古墳 (後継)
-1	中之島遺跡群 南島遺跡	集落址	弥生~平安	46	白尾塚	塚跡	弥生~平安
-2	中之島遺跡群 上河津遺跡	集落址	弥生~平安	47	白尾塚	塚跡	弥生~平安
-3	中之島遺跡群 船形塚跡	集落址	弥生~平安	48	白尾塚	塚跡	弥生~平安
-4	中之島遺跡群 北流遺跡	集落址	弥生~平安	-1	船形古墳群 小野沢穴遺跡1号墳 (西原社敷地)	古墳	古墳 (後継)
-5	中之島遺跡群 東上流遺跡	集落址	弥生~平安	-2	船形古墳群 小野沢穴遺跡2号墳	古墳	古墳 (後継)
-6	中之島遺跡群 北川河津遺跡	集落址	弥生~平安	-3	船形古墳群 小野沢穴遺跡3号墳 (マツクラ古墳)	古墳	古墳 (後継)
9	南島山頂 (南島穴)	集落址	弥生~平安	-4	船形古墳群 小野沢穴遺跡4号墳	古墳	古墳 (後継)
10	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	49	小野沢穴	古墳	弥生~平安
-1	船形古墳群 入城塚遺跡 高野田遺跡	古墳	古墳 (後継)	50	船形古墳群 船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-2	船形古墳群 入城塚遺跡 高野田遺跡	古墳	古墳 (後継)	51	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
11	入城塚遺跡	古墳	古墳 (後継)	52	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
12	船形古墳群 上流遺跡	古墳	古墳 (後継)	53	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
13	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	54	山崎山頂遺跡	集落址	平安
14	船形古墳群 山崎山頂	集落址	平安	55	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
15	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	56	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
16	船形古墳群 山崎山頂	集落址	平安	57	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
17	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	58	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-1	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	59	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-2	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	60	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-3	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	61	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-4	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	62	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-5	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	63	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-6	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	64	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-7	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	65	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-8	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	66	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-9	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	67	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-10	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	68	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-11	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	69	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-12	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	70	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-13	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	71	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-14	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	72	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
18	船形古墳群 船形山頂 二層墳	古墳	古墳 (後継)	73	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
19	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	74	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
20	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	75	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
21	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	76	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
22	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	77	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
23	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	78	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
24	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	79	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
25	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	80	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
26	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	81	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
27	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	82	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
28	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	83	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
29	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	-1	船形古墳群 船形山頂1号墳	古墳	古墳 (後継)
30	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	-2	船形古墳群 船形山頂2号墳	古墳	古墳 (後継)
-1	船形古墳群 船形山頂 (水上)	古墳	古墳 (後継)	-3	船形古墳群 船形山頂3号墳	古墳	古墳 (後継)
-2	船形古墳群 船形山頂 (船形)	古墳	古墳 (後継)	84	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-3	船形古墳群 船形山頂 (船形)	古墳	古墳 (後継)	85	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-4	船形古墳群 船形山頂 (船形)	古墳	古墳 (後継)	86	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-5	船形古墳群 船形山頂 (船形)	古墳	古墳 (後継)	87	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
31	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)	88	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-1	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	89	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
-2	船形古墳群 船形山頂	古墳	古墳 (後継)	90	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
32	土井ノ入遺跡	集落址	弥生~平安	91	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)
33	平島遺跡	集落址	弥生~平安	92	船形古墳群	古墳	古墳 (後継)

第三章 調査の概要

第1節 調査の方法

本遺跡の調査では、調査区の遺構・遺物の正確な位置を記録でき、なお、将来的に周辺で実施される遺跡の発掘調査での遺構・遺物の調査にも整合できるように、平成14年4月施行の世界測地系2000の座標軸を基にグリッドを組んだ。

グリッドについては、200m×200mの大グリッドを設け区画を行い、その中を40m×40mに25等分した中グリッドを設定(第3図)し、北東端より「A・B・C…Y」区とアルファベットの大文字で命名した。本調査ではF・K・L・P・Q区が発掘調査の対象グリッドである。また、その中グリッドを4m×4mの小グリッドで100区画に分割し、南北列を北から算用数字で「1・2・3…10」、東西列を東から五十音順で「あ・い・う…こ」と呼称することとした。例えば、その中の北東交点を「Oグリッド」というように命名し、調査に係るグリッドの呼称は例えば「Oあ1グリッド」とし、遺物の取り上げや遺構図の作成の基準とした。また、発掘調査における遺構の実測は、基本的に1/20を基準として簡易通り方実測にて行った。

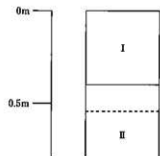


第3図 寺溝遺跡IV発掘調査区設定図(1:2,500)

第2節 基本層序

本調査区の基本層序は右に柱状図を示したとおりである。Ⅰ層は黒褐色土層で、耕作土層である。Ⅱ層は明黄褐色の砂礫を多く含む層で、地山である。

以上が本調査区の基本層序であるが、耕作土層は場所によって厚さが異なった。



Ⅰ層 黒褐色土 (10YR5/2)、耕作土層。
Ⅱ層 明黄褐色土 (10YR6/6)、砂礫の地山層。

第4図 基本層序模式図

第3節 検出された遺構・遺物

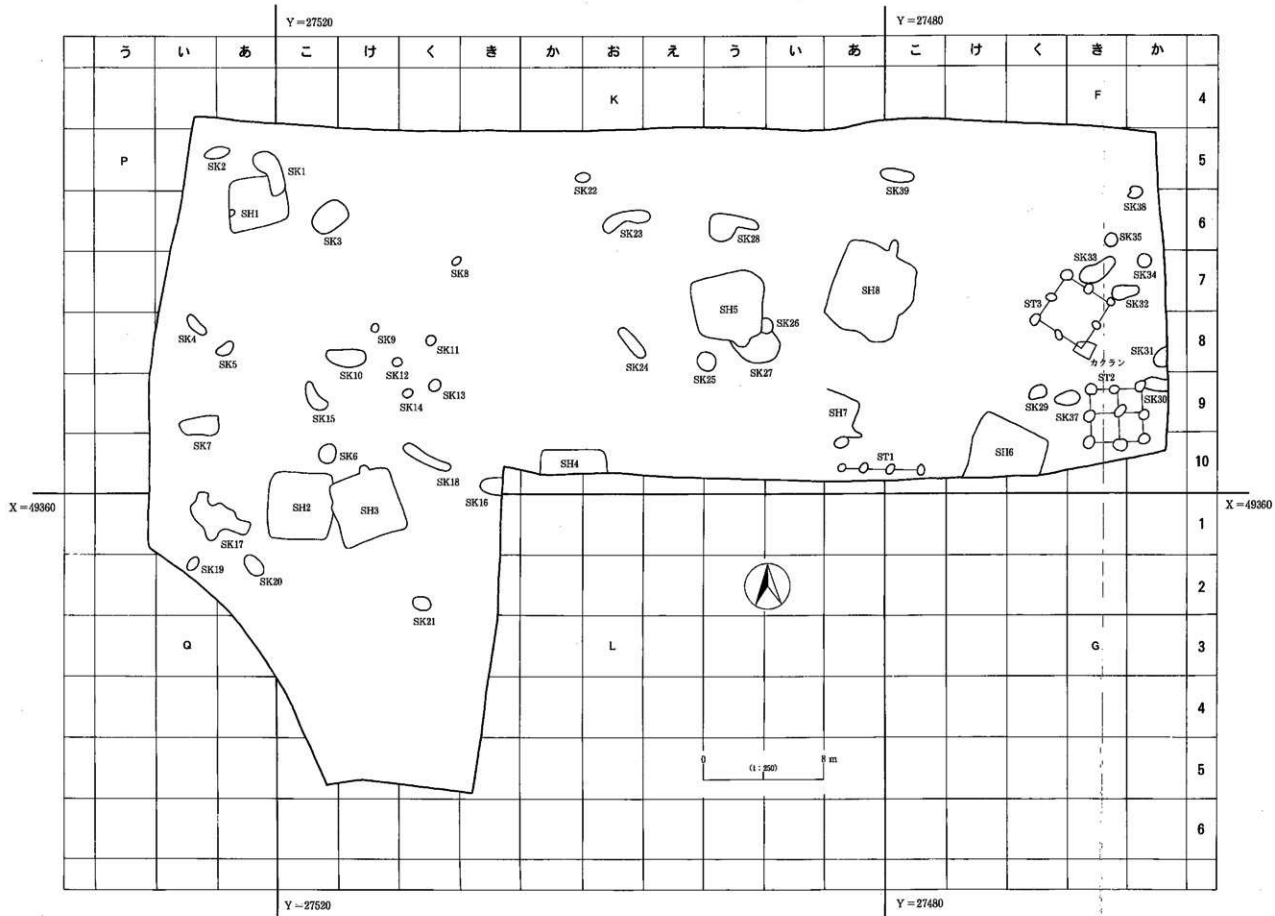
本調査によって検出された遺構・遺物は以下のとおりである。

遺構)

奈良・平安時代	竪穴住居址	8棟
	掘立柱建物址	3棟
	土坑址	2基
時期不明	土坑址	36基

遺物)

縄文時代	石器
奈良・平安時代	土師器・須恵器・鉄器



第6図 寺湊遺跡IV遺構配置図 (1:250)

第四章 調査の結果

第1節 竪穴住居址

(1) 1号住居址

遺構 (第6図)

検出位置：Kこ5、Kこ6、Pあ6、Pあ5グリッド。重複関係：1号土坑に切られている。平面形態：概ね3.9m×3.3mの隅丸方形を呈している。主軸方位はN-78°-Eを指す。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。カマド：住居址の東側から検出された。住居廃絶時に解体されたものと思われ、底部が僅かに検出されたのみである。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷き込んでいた。ピット：床面において4基のピットが確認された。浅い掘り込みで、用途などは判然としない。遺物出土状況：住居址の覆土上・中・下層から偏りなく出土した。柱穴：本住居址では支柱穴は確認できなかった。

遺物 (第7図、第1表)

7-1は須恵器坏蓋である。湾曲が少なく直線的に開くものである。2・3は須恵器高台付坏である。2は底部に回転へら切り痕を残す。4~7は須恵器坏である。底部に糸切り痕を残し、5・7は内外面に火罨が観察できる。8~10は土師器坏である。8と10は底部に回転糸切り痕を残す。11は土師器甕である。時期：出土遺物や住居址の形態から奈良時代末から平安時代初頭頃の所産と思われる。

(2) 2号住居址

遺構 (第8図)

検出位置：Kこ10、Lこ1、Qあ1、Pあ10グリッド。重複関係：3号住居址に切られている。平面形態：概ね4.5m×4.5mの隅丸方形を呈している。主軸方位はN-2°-Eを指す。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。カマド：住居址の北側から検出された。地山上に石材を設置して、外側を粘質土で固める構造であった。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷き込んでいた。ピット：床面において5基のピットが確認された。浅い掘り込みで、用途などは判然としない。遺物出土状況：住居址の覆土上、中、下層から少量の遺物が出土した。柱穴：本住居址では支柱穴は確認できなかった。

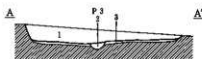
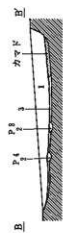
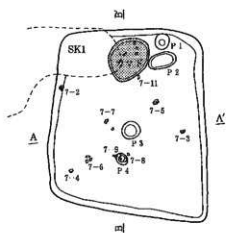
遺物 (第9図、第1表)

9-1~3は須恵器高台付坏である。底部に回転へら切り痕を残す。4~7は須恵器坏である。底部に回転糸切り痕を残し、4・6は内外面に火罨が観察できる。8・9は土師器坏である。8の内面には黒色処理が施されている。10・11は土師器甕の口縁部~胴部である。時期：出土遺物や住居址の形態から奈良時代後半~平安時代初頭頃の所産と思われる。

(3) 3号住居址

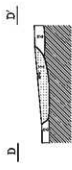
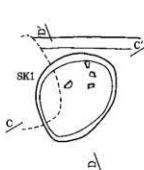
遺構 (第10図)

検出位置：Lく1、Lけ1、Lこ1、Kこ10、Kけ10グリッド。重複関係：2号住居址を切っている。平面形態：概ね4.5m×4.5mの隅丸方形を呈している。主軸方位はN-18°-Wを指す。覆土：黒褐色を基調と

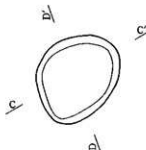


1. 黒褐色土 (10YR3/1) 砂礫を多く含む。炭化粒、焼土粒を微量含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化粒、焼土粒を微量含む。
3. 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒を微量含む。粘り状層。

標高 23.80m
(1:40) 2 m

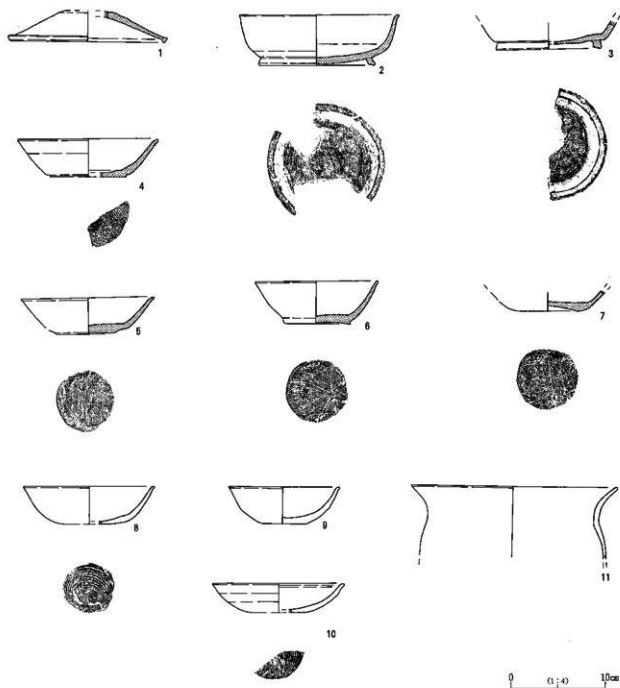


1. 暗褐色土 (7.5YR3/3) 炭化粒、焼土粒を多く含む。カマドの焼土層。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒を微量含む。粘り状層。



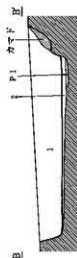
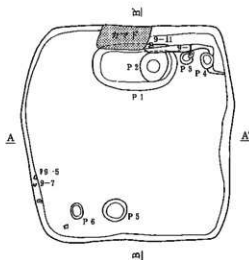
標高 23.60m
(1:40) 2 m

第6図 1号住居址・カマド実測図



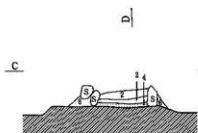
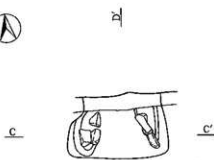
第7図 1号住居址出土遺物実測図

する土層が堆積していた。カマド：住居址の北側から検出された。地山上に石材を設置して、内外を粘質土で固める構造であった。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ十数センチの床土を敷き込んでいた。ピット：床面において2基のピットが確認された。浅い掘り込みで、用途などは判然としない。遺物出土状況：遺物はほとんど出土しなかった。柱穴：今回の調査では柱穴は確認できなかった。遺物：図示しえる遺物は出土しなかった。時期：時期の判別できる遺物は出土しなかったが、住居址の形態などから、古代の所産であると思われる。



1. 黒褐色土 (10YR3/2) 焼土粒・炭化粒を混入、砂礫を多く含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒を混入含む、粘り気強。

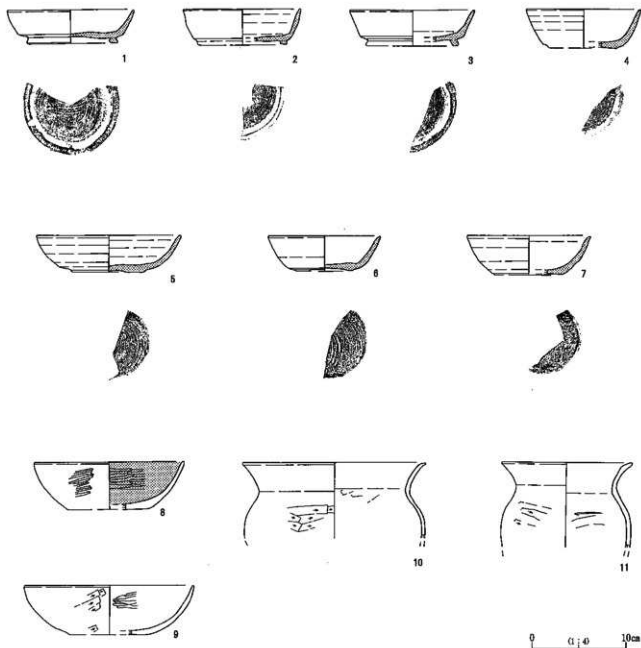
標高432.20m
(1:50) 2 m



1. 暗褐色土 (10YR3/2) 焼土粒を混入含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色粘土ブロックを多く含む、粘性强。
3. 黄褐色土 (10YR5/6) 黄褐色粘土ブロックを多く含む、炭化したカマドの天井部。
4. 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土粒・炭化粒を多く含む、カマドの焼上層。
5. 比較的黄褐色土 (10YR5/4) カマド張り方層上。
6. 黄褐色土 (10YR5/6) 黄褐色粘土土壌層、カマドの土版。

標高431.20m
(1:40) 1 m

第8図 2号住居址・カマド実測図

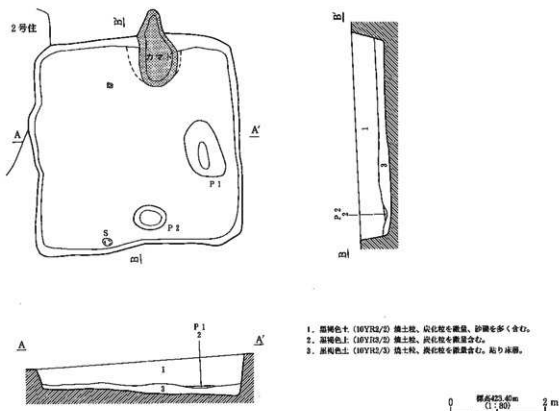


第9図 2号住居址出土遺物実測図

(4) 4号住居址

遺構 (第12図)

検出位置：Kお10、Kか10グリッド。重複関係：南側が調査区外未検出のため詳細は不明である。平面形態：調査区外未検出のため詳細は不明であるが、概ね4.5m×4.5mの隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-2°-Eを指す。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。カマド：住居址の北側から検出された。粘質土を用いたカマドで、ソデ部の残存状況は比較的良かった。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷き込んでいた。ビット：床面において、3基のビットが確認された。用途などは判然としない。遺物出土状況：住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土で、北東隅に集中する傾向が読み取れた。柱穴：今回の調査では柱穴は確認できなかった。



第10図 3号住居址実測図

遺物 (第13図、第1表)

13-1～4は須恵器杯である。1～3の底部には回転糸切り痕を残し、2は内面に、3は内外面に火樫が確認できる。5は土師器杯である。6は土師器小甕の胴部～底部で、内面上部に漆が付着している。時期：出土遺物や住居址の形態から奈良時代後半～平安時代初頭頃の所産と思われる。

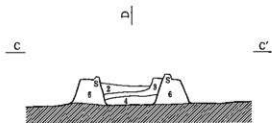
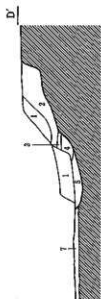
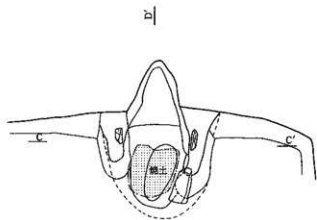
(5) 5号住居址

遺構 (第14図)

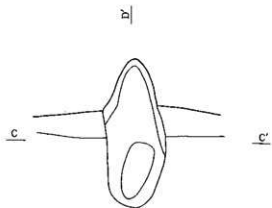
検出位置：Kう7、Kう8、Kえ8、Kえ7、Kう7グリッド。重複関係：カマド付近が、26号土坑に切られている。平面形態：概ね4.5m×4.5mの隅丸方形を呈している。主軸方位はN-80°-Eを指す。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。カマド：住居址の東側から検出された。ソデの残存状況は比較的良好で、板状の石材を主材にしている状況が確認できた。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷き込んでいた。ピット：床面において10箇所程度のピットを確認した。カマド南側のピットは比較的大きく、土器片が多く出土した。遺物出土状況：住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。また、カマドの周辺からは多くの土器片が出土した。柱穴：今回の調査では主柱穴は確認できなかった。

遺物 (第15・16図、第1・2・6表)

15-1～3は須恵器高台付杯である。1～3は底部に回転ヘラ切り痕を残す。4は須恵器杯である。



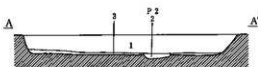
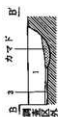
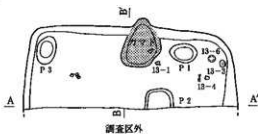
1. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘土粒、炭化粒を散見含む。埋藏層。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂礫を多く含む。埋藏層。
3. 黄褐色土 (10YR5/6) 粘土ブロック玉状層。崩壊したカマドの天井層。
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘土粒、炭化粒を少量含む。埋藏層。
5. 暗赤褐色土 (5YR3/6) 粘土ブロック・炭化物を多く含む。
6. 黄褐色土 (10YR5/6) 黄褐色粘土主体層。カマドの輪郭。
7. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘土粒、炭化粒を散見含む。埋蔵床層。



D

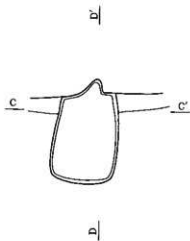
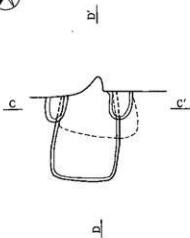
0 標高433.20m (1:40) 1 m

第11図 3号住居址カマド実測図



1. 黒褐色土 (10YR3/3) 粘土粒、炭化粒を微量、砂礫を多く含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘土粒、炭化粒を微量含む。
3. 暗褐色土 (10YR3/4) 粘土粒を多く含む。降り床部。

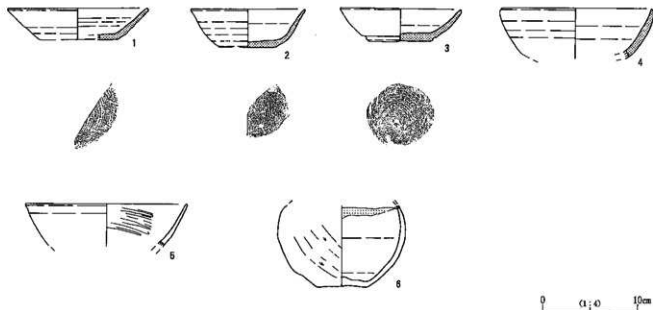
0 標高433.80m (1:40) 2 m



1. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物を少量含む。地縁部。
2. 黄褐色土 (5YR5/5) 粘土ブロック主体部。崩落したカマド火分器。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物・粘土ブロックを多く含む。カマドの粘土層。
4. 物質褐色土 (10YR6/6) 粘土ブロック主体部。カマド縁部。
5. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘土粒を多く含む。降り床部。

0 標高433.80m (1:40) 2 m

第12図 4号住居址・カマド実測図



第13図 4号住居址出土遺物実測図

底部に糸切り痕を残す。6・7は土師器高台付坏である。8・9は土師器皿である。底部に回転糸切り痕を残す。10~20は土師器坏である。10~12・14・16は底部に回転糸切り痕を、13・15は回転ヘラ切り痕を残す。11~20は内面に黒色処理が施されている。21は土師器壺である。22は土師器鍋である。16-1~3は礫石器である。上面に使用に際して付いたと思われる磨滅痕が確認できる。時期：出土遺物や住居址の形態から平安時代前半頃の所産と思われる。

(6) 6号住居址

遺構 (第17図)

検出位置：F<10、Fけ10、Fけ9、F<9グリッド。重複関係：南側が調査区外未検出のため不明である。平面形態：調査区外未検出のため詳細は不明であるが、概ね5m×5mの隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-115°-Eを指す。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。カマド：今回の調査では確認されなかった。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。ビット：床面及び掘り方底面においてビット等は確認されなかった。遺物出土状況：住居址の覆土全層から偏りなく出土した。柱穴：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

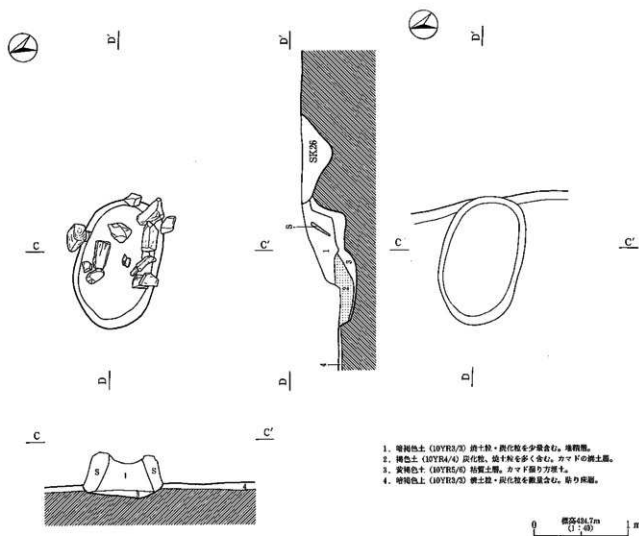
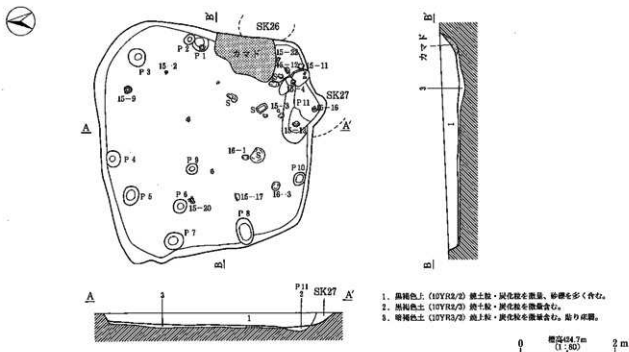
遺物 (第18図、第2表)

18-1・2は須恵器坏蓋である。3~6は須恵器坏である。底部に回転糸切り痕を残す。3は内面に、4は内外面に火傷が観察できる。7は須恵器鉢である。口縁部が外方に向かって強く開いている。時期：出土遺物や住居址の形態から平安時代前半頃の所産と思われる。

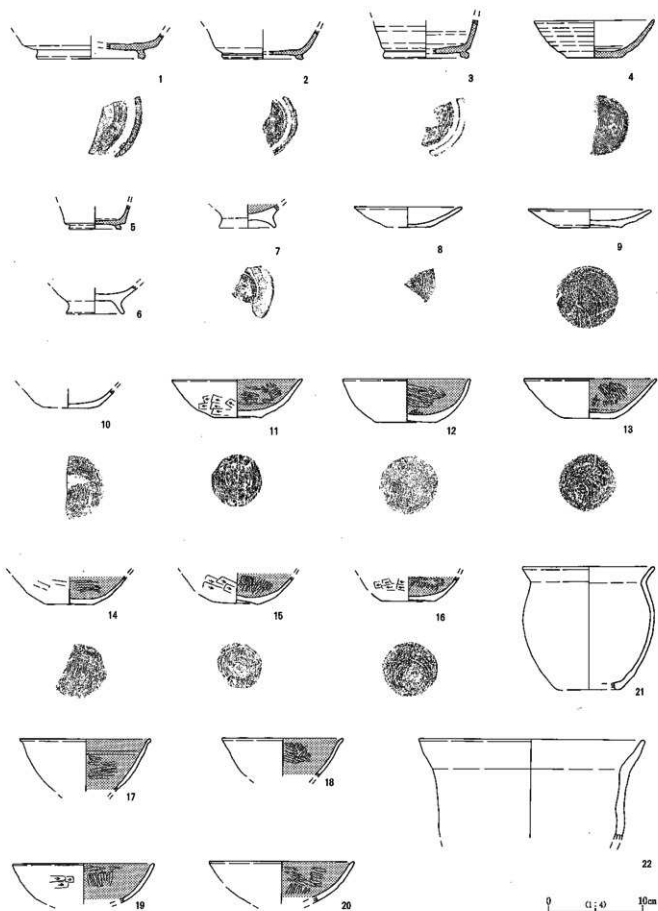
(7) 7号住居址

遺構 (第19図)

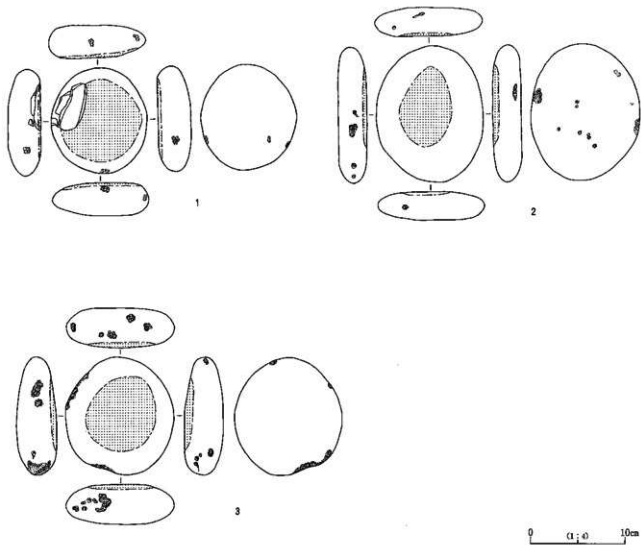
検出位置：Kあ10、Kい10、Kい9、Kあ9グリッド。重複関係：住居址南側及び西側が削平されていた。平面形態：大きく削平を受けていたため詳細は不明である。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。



第14図 5号住居址・カマド実測図



第16图 5号住居址出土文物实测图〈1〉



第16図 5号住居址出土遺物実測図〈2〉

カマド：住居址の東側において確認された。ソデなどの構造物は退去時に破壊されたものと思われ、ソデ部に使用されたとされる石材が散乱するのみであった。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。ピット：床面において数基のピットが確認された。用途は判然としない。遺物出土状況：住居址の覆土床直層から少量出土した。柱穴：今回の調査では主柱穴は確認できなかった。

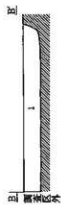
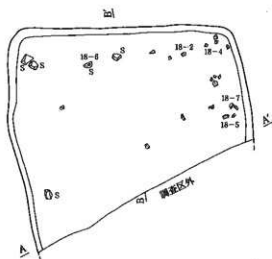
遺物（第20図、第2表）

20-1は須恵器環蓋である。2～5は須恵器環である。底部に回転糸切り痕を残す。2は内外面に火溝が確認できる。時期：出土遺物や住居址の形態から奈良時代後半～平安時代初頭頃の所産と思われる。

(8) 8号住居址

遺構（第22図）

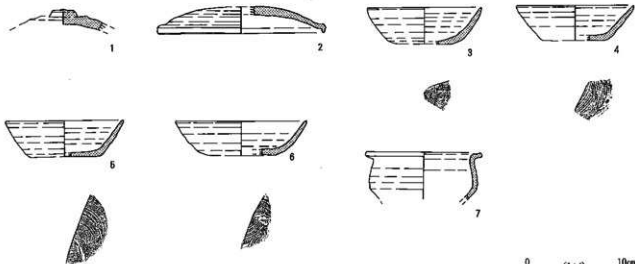
検出位置：Fこ6、Fこ7、Fこ8、Kあ8、Kあ7、Kあ6グリッド。重複関係：なし。平面形態：5.8m×5.5mの隅丸方形を呈するものと思われる。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。カマド：住居址北側と東側からそれぞれ1基ずつが検出された。本住居址の本来のカマドは北側で、後に東側に作り変えられ、廃絶まで東側のカマドが使用されたものと思われる。北側のカマドは長大な煙道を持ち、板状の



1. 黄褐色土 (G0YB2/2) 粘土粒、炭化粒を散見、砂礫を多く含む。

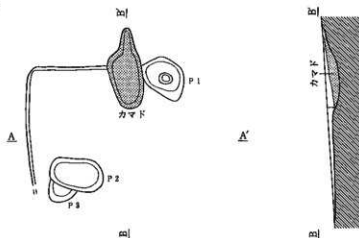
0 標高425.30m (1:80) 2m

第17图 6号住居址实测图



0 (1:4) 10cm

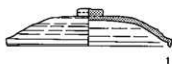
第18图 6号住居址出土遗物实测图



1. 黒褐色土 (00YR2/2) 炭土粒・炭化粒を数層、砂層を多く含む。

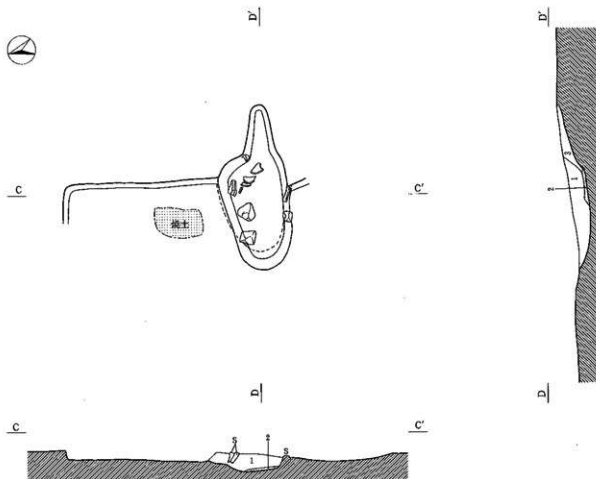
標高424.90m
(1:50) 0 2 m

第19図 7号住居址実測図

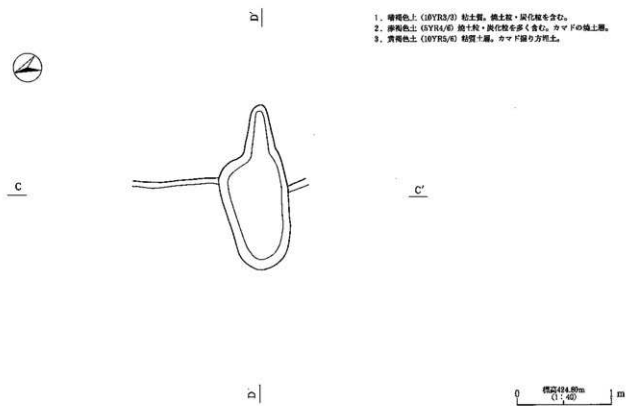


0 (1:10) 10cm

第20図 7号住居址出土遺物実測図



1. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘土質。粘土粒・炭化粒を含む。
2. 厚褐色土 (5YR4/6) 粘土質・炭化粒を多く含む。カマドの粘土層。
3. 黄褐色土 (10YR5/6) 粘質土層。カマド張り方粘土。



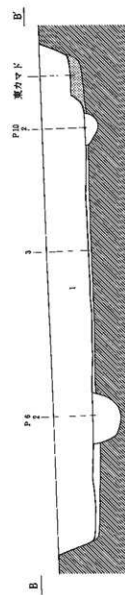
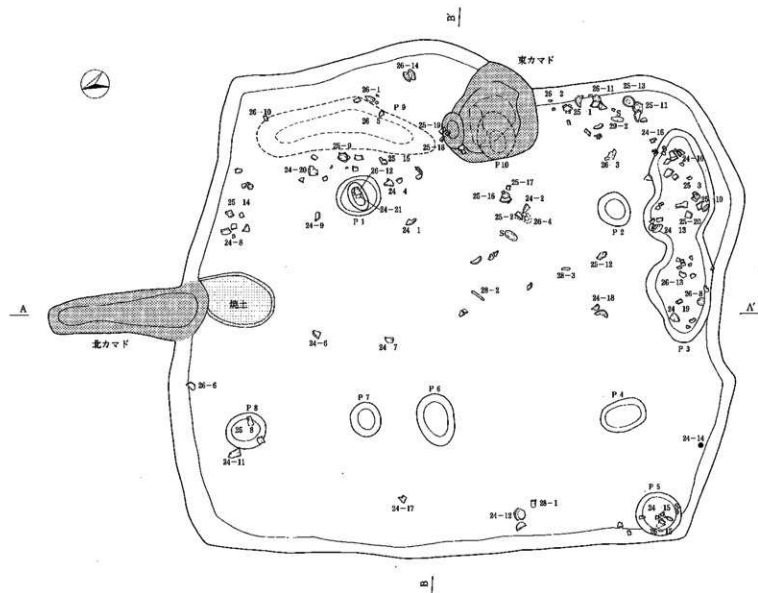
0 標高44.80m (1:40) m

第21図 7号住居址カマド実測図

石材を敷き並べていた。北・東のカマド共に、廃絶時に破壊したものとみられ、ソデ部などは残存していなかった。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷き込んでいた。ピット：床面において8基のピットが確認され、床下において1基のピットが確認された。遺物出土状況：住居址の覆土上・中・下層から偏りなく出土した。柱穴：今回の調査では、浅いものであったが4基の主柱穴と目されるピットが確認された。

遺物（第24・25・26・27・28・29図、第2・3・4・5・6表）

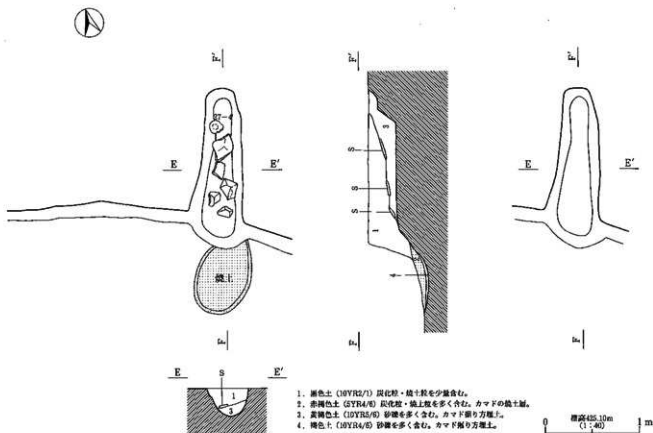
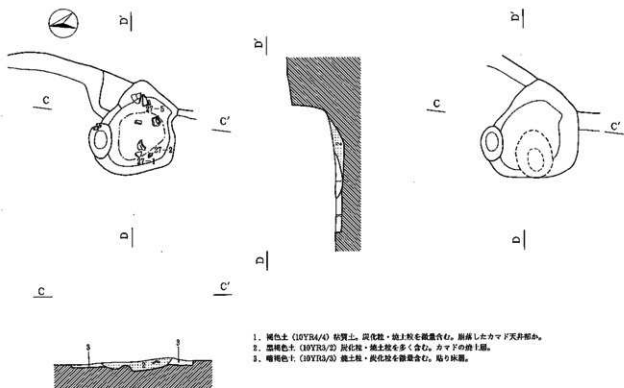
24-1～4は須恵器坏蓋である。5は薬壺の蓋である。擬宝珠状ツマミが取り付け、焼成は良好である。6～13は須恵器高台付坏である。底部に回転ヘラ切り痕を残す。10の底面には「日」字が刻み込まれている。14～26-4は須恵器坏である。底部に糸切り痕を残す。24-19・25-18は内外面に、26-1は外面に火罨が観察できる。26-3の外面底部付近には一部に、一文字様に墨が塗られた部分が観察できるが、文字や記号の体を成していない。26-5は須恵器壺の口縁部である。6は須恵器甕の口縁部～胴部である。7・8は須恵器高台付坏を用いた転用硯である。坏部を丁寧に打ち欠いて底面を硯として使用している。使用面は長年による使用のためか平滑になっている。9は円面硯である。小片ではあるが、7箇所の透かしが復元できる。脚部には5条の縦位沈線が施されている。上面は使用のため平滑になっている。5号住居址から出土した破片と接合関係をもつ。10は把手の付いた須恵器坏である。把手は短いものであるが、シャープに形成されている。11～13は土師器坏である。11には回転糸切り痕が、12にはヘラ切り痕が残されている。12は内面に黒色処理が施されている。14・15は土師器甕である。27-1は須恵器坏蓋である。2は須恵器高台付坏である。底部にヘラ切り痕を残す。3・4は須恵器坏で、底部に回転糸切り痕を残す。5は土師器坏で底部に回転糸切り痕を残す。28-1は手斧である。腐食が激しいが、刃部とソケット部が観察できる。現状では木柄などの木質及び有機質は観察できない。2・3は腐食が激しいが、槍鉋であると思われる。現状では木柄などの木質及び有機質は観察できない。29-1はチャート製の石鏃である。基部が欠損している。2は礫石器である。先端部に敲打痕が残る。なお、これらの他に覆土中から獣骨が数点出土した（写真図版12）。時期：出土遺物や住居址の形態から平安時代前半頃の所産と思われる。



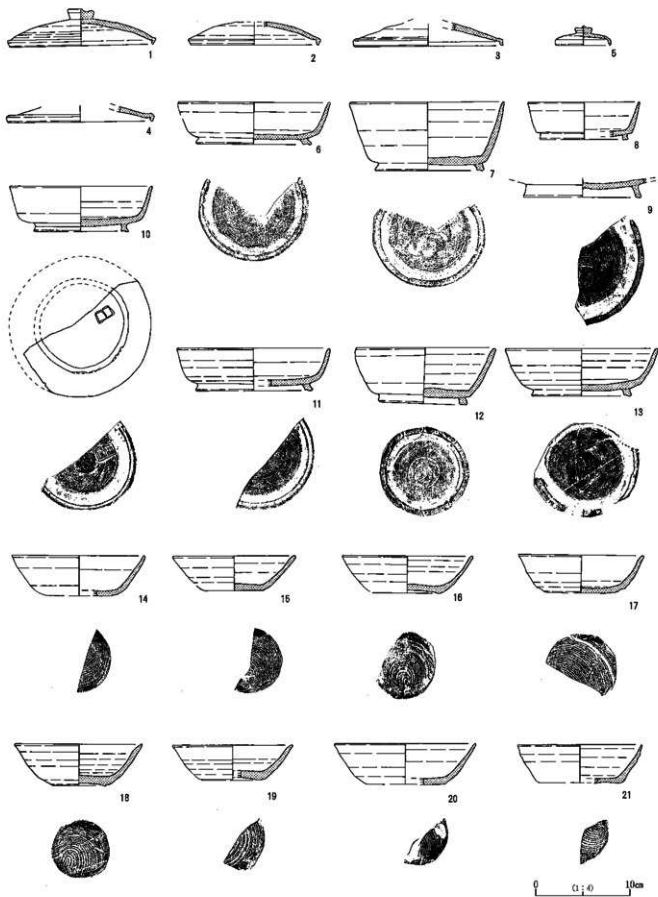
1. 凝結土 (OV12/1) 凝結層・数十枚を散見含む。
2. 凝結土 (OV12/2) 凝結層・硝子粒を散見含む。
3. 凝結土 (OV12/3) 凝結層・炭灰粒を散見含む。硝子粒も。

0 縮尺42.0m (1:420) 1 m

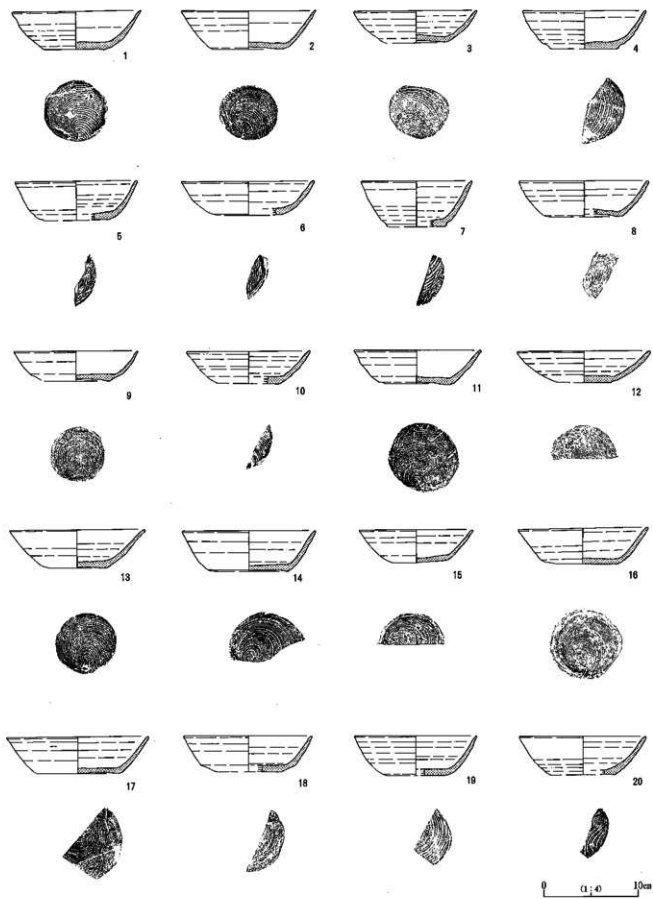
第22図 8号住居址実測図



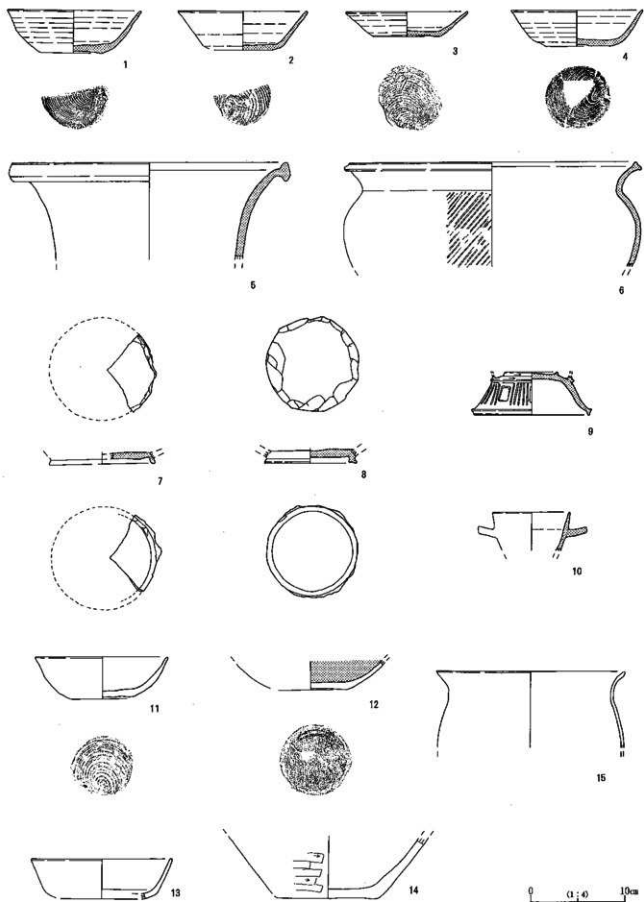
第23図 8号住居址カマド実測図



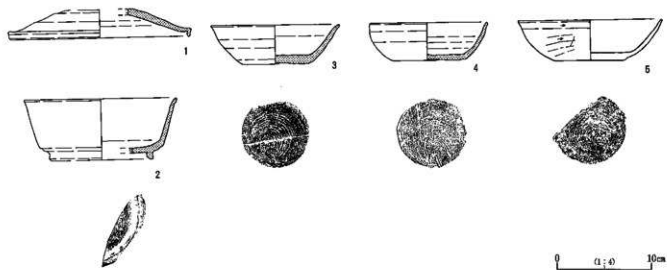
第24图 8号住居址出土遗物实测图〈1〉



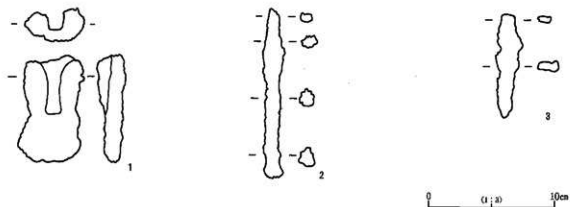
第25图 8号住居址出土遗物实测图(2)



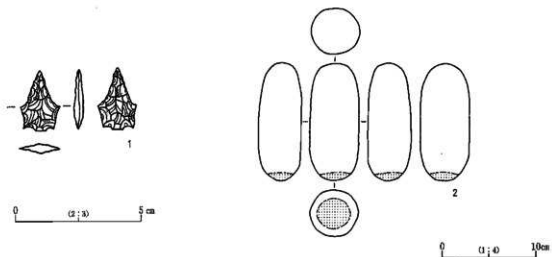
第26圖 8号住居址出土遺物実測圖〈3〉



第27图 8号住居址出土遺物実測图〈4〉



第28图 8号住居址出土遺物実測图〈5〉



第29图 8号住居址出土遺物実測图〈6〉

第2節 土坑址

(1) 1号土坑

遺構 (第30図)

検出位置：Kこ5、Kこ6、Pあ6、Pあ5グリッド。重複関係：1号住居址を切っている。平面形態：長軸約3.2m、短軸約1.0mの「く」字状を呈し、主軸方位はN-160°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは24cmである。底面には石材が円形に並べられたものが2箇所確認できた。一つは中心部にも石材が敷きこまれていたが、他方の中心部は空間になっていた。覆土：暗褐色土(10YR3/3)の単層であった。遺物出土状況：中層より上からまとまった量の須恵器が出土した。完形のものは無かったが、全て全容をうかがい知ることの出来るもので、土坑底面に並べられた石材と関連があるかもしれない。火葬墓であった可能性もあるが、人骨など確たる証拠は出土しなかった。

遺物 (第31図、第4表)：31-1は須恵器坏蓋である。2は須恵器高台付坏である。底部にヘラ切り痕を残す。3は須恵器坏である。底部に回転糸切り痕を残す。時期：出土遺物から奈良時代後半から平安時代前半の所産と考えられる。

(2) 2号土坑

遺構 (第30図)

検出位置：Pあ5、Pい5グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.8m、短軸約0.8mの楕円形を呈し、主軸方位はN-76°-Eを指す。断面形態：緩やかな碗状を呈し、検出面からの深さは約40cmを測る。覆土：暗褐色土(10YR3/3)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(3) 3号土坑

遺構 (第30図)

検出位置：Kけ6、Kこ6グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.5m、短軸約1.8mの隅丸方形を呈し、主軸方位はN-49°-Eを指す。断面形態：碗状を呈し、検出面からの深さは50cmを測る。覆土：暗褐色(10YR3/3)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(4) 4号土坑

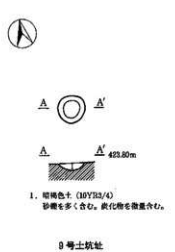
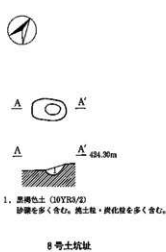
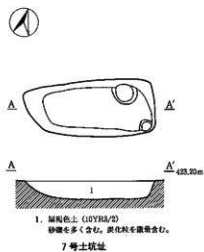
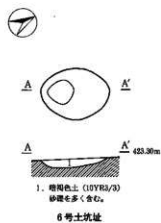
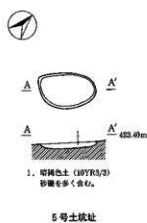
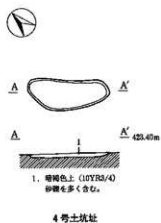
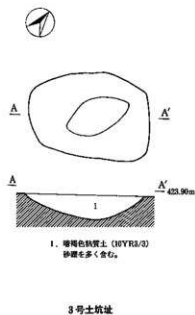
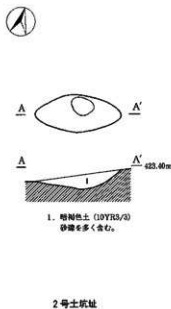
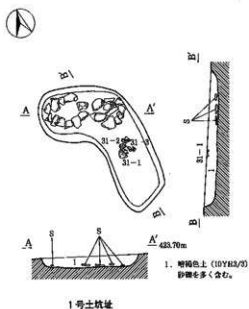
遺構 (第30図)

検出位置：Pい8グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.7m、短軸約0.65mの楕円形を呈し、主軸方位はN-135°-Eを指す。断面形態：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約8cmを測る。覆土：褐色土(10YR3/4)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

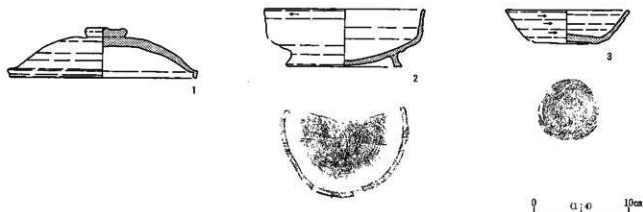
(5) 5号土坑

遺構 (第30図)

検出位置：Pあ8、Pい8グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.15m、短軸約0.75mの楕円形を呈し、主軸方位はN-47°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは12cmである。覆土：暗



第30図 土坑址実測図 <1>



第31図 1号土坑址出土遺物実測図

褐色土（10YR3/3）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(6) 6号土坑

遺構（第30図）

検出位置：Kに10グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.45m、短軸約1.1mの楕円形を呈し、主軸方位はN-44°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは17cmである。覆土：暗褐色土（10YR3/3）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(7) 7号土坑

遺構（第30図）

検出位置：Pあ9、Pい10、Pい9グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.8m、短軸約1.2mの楕円形を呈し、主軸方位はN-85°-Eを指す。断面形態：やや深い皿状を呈し、検出面からの深さは40cmである。覆土：黒褐色土（10YR3/2）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(8) 8号土坑

遺構（第30図）

検出位置：Kく7グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.7m、短軸約0.45mの楕円形を呈し、主軸方位はN-60°-Eを指す。断面形態：碗状を呈し、検出面からの深さは23cmである。覆土：黒褐色土（10YR2/2）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(9) 9号土坑

遺構（第30図）

検出位置：Kけ8グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.6m、短軸約0.55mの楕円形を呈し、主軸方位はN-60°-Eを指す。断面形態：碗状を呈し、検出面からの深さは約16cmである。覆土：暗褐色土（10YR3/4）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(10) 10号土坑

遺構(第32図)

検出位置：Kけ8、Kこ8グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.7m、短軸約1.2mの楕円形を呈し、主軸方位はN-91°-Eを指す。断面形態：2段に掘り込まれた逆台形を呈し、検出面からの深さは約42cmを測る。覆土：暗褐色土(10YR3/4)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(11) 11号土坑

遺構(第32図)

検出位置：Kく8グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.7m、短軸約0.6mの円形を呈し、主軸方位はN-90°-Eを指す。断面形態：椀状を呈し、検出面からの深さは19cmである。覆土：暗褐色土(10YR3/3)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(12) 12号土坑

遺構(第32図)

検出位置：Kく8、Kけ8グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.6m、短軸約0.6mの円形を呈し、主軸方位はN-0°-Eを指す。断面形態：椀状を呈し、検出面からの深さは18cmである。覆土：黒褐色土(10YR2/3)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(13) 13号土坑

遺構(第32図)

検出位置：Kく9グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.75m、短軸約0.7mの楕円形を呈し、主軸方位はN-140°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面約らの深さは約13cmである。覆土：黒褐色土(10YR2/3)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(14) 14号土坑

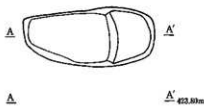
遺構(第32図)

検出位置：Kく9グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.65m、短軸約0.5mの楕円形を呈し、主軸方位はN-65°-Eを指す。断面形態：緩やかな逆台形を呈し、検出面からの深さは約14cmである。覆土：暗褐色土(10YR3/3)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(15) 15号土坑

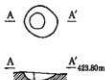
遺構(第32図)

検出位置：Kこ9グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.1m、短軸約1.0mの「く」字状を呈し、主軸方位はN-142°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約9cmである。覆土：暗褐色土(10YR4/4)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。



1. 暗褐色土 (10YR3/4)
砂礫を多く含む。黄土粒・炭化粒を微量含む。

10号土坑址



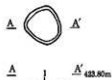
1. 暗褐色土 (10YR3/3)
砂礫を多く含む。

11号土坑址



1. 黒褐色土 (10YR2/3)
砂礫を多く含む。
炭化粒を微量含む。

12号土坑址



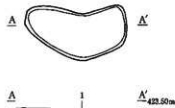
1. 黒褐色土 (10YR2/2)
砂礫を多く含む。

13号土坑址



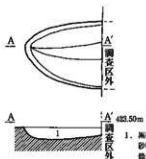
1. 暗褐色土 (10YR3/2)
砂礫を多く含む。
黄土粒・炭化粒を微量含む。

14号土坑址



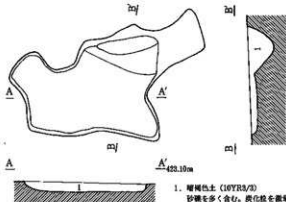
1. 暗色土 (10YR4/4)
砂礫を多く含む。

15号土坑址



1. 黒褐色土 (10YR2/2)
砂礫を多く含む。
黄土粒・炭化粒を微量含む。

16号土坑址



1. 暗褐色土 (10YR3/2)
砂礫を多く含む。炭化粒を微量含む。

17号土坑址



第32図 土坑址実測図〈2〉

(16) 16号土坑

遺構 (第32図)

検出位置：Kき10、Lき1グリッド。重複関係：調査区外未検出のため不明。平面形態：調査区外未検出のため不明。断面形態：調査区外未検出のため詳細は不明であるが、碗状を呈し、検出面からの深さは約26cmである。覆土：黒褐色土 (10YR2/2) の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(17) 17号土坑

遺構 (第32図)

検出位置：Qあ1、Qい1、Pい10グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約4.0m、短軸約2.0mのいびつな形状を呈し、主軸方位はN-116°-Eを指す。断面形態：2段に掘り込まれたやや深い碗状を呈し、検出面からの深さは約57cmである。覆土：暗褐色土 (10YR3/3) の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(18) 18号土坑

遺構 (第33図)

検出位置：Kく10グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約3.4m、短軸約0.75mの長楕円形を呈し、主軸方位はN-116°-Eを指す。断面形態：2段に掘り込まれた緩やかな逆台形を呈し、検出面からの深さは約32cmである。覆土：暗褐色土 (10YR4/4) の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(19) 19号土坑

遺構 (第33図)

検出位置：Qい2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.1m、短軸約0.7mの楕円形を呈し、主軸方位はN-51°-Eを指す。断面形態：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約13cmである。覆土：暗褐色土 (10YR3/3) の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(20) 20号土坑

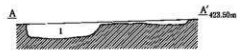
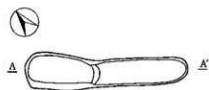
遺構 (第33図)

検出位置：Qあ2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.6m、短軸約1.1mの楕円形を呈し、主軸方位はN-137°-Eを指す。断面形態：浅い逆台形を呈し、検出面からの深さは約14cmである。覆土：暗褐色土 (10YR3/4) の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(21) 21号土坑

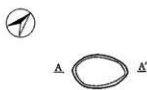
遺構 (第33図)

検出位置：Lく2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.25m、短軸約0.9mの楕円形を呈し、主軸方位はN-95°-Eを指す。断面形態：碗状を呈し、検出面からの深さは40cmである。覆土：黒褐色土 (10YR3/2) の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。



1. 褐色土 (10YR4/4)
礫を多く含む。焼土粒・炭化粒を含む。

18号土坑址



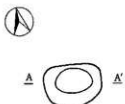
1. 暗褐色土 (10YR3/2)
砂礫・焼土粒・炭化粒を多く含む。

19号土坑址



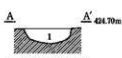
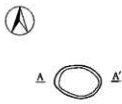
1. 暗褐色土 (10YR3/4)
砂礫を多く含む。炭化粒を数粒含む。

20号土坑址



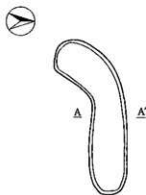
1. 黒褐色土 (10YR3/2)
砂礫・炭化粒を多く含む。

21号土坑址



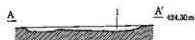
1. 暗褐色土 (10YR3/3)
砂礫を多く含む。

22号土坑址



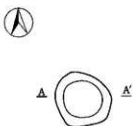
1. 暗褐色土 (10YR3/3)
砂礫を多く含む。

23号土坑址



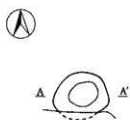
1. 暗褐色土 (10YR4/4)
砂礫を多く含む。

24号土坑址



1. 暗褐色土 (10YR3/2)
砂礫を多く含む。

25号土坑址



1. 暗褐色土 (10YR3/2)
砂礫を多く含む。

26号土坑址

0 (1:80) 2 m

第33図 土坑址実測図(3)

(22) 22号土坑

遺構 (第33図)

検出位置：Kお5、Kか5グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.0m、短軸約0.7mの楕円形を呈し、主軸方位はN-85°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約30cmである。覆土：暗褐色土 (10YR3/3) の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(23) 23号土坑

遺構 (第33図)

検出位置：Kえ6、Kお6グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約3.35m、短軸約0.8mの「く」字状を呈し、主軸方位はN-142°-Eを指す。長軸約4.0m、短軸約2.26mのややいびつな楕円形を呈し、主軸方位はN-90°-Eを指す。断面形態：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約8cmである。覆土：暗褐色土 (10YR3/3) の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(24) 24号土坑

遺構 (第33図)

検出位置：Kえ8、Kお8グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.5m、短軸約0.85mの楕円形を呈し、主軸方位はN-140°-Eを指す。断面形態：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約10cmである。覆土：暗褐色土 (10YR3/4) の単層であった。遺物出土状況：覆土中から作製中の黒曜石製石鏃が1点出土した。

遺物 (第34図、第6表)：34-1は黒曜石製石鏃の未製品である。時期：帰属時期は不明である。

(25) 25号土坑

遺構 (第33図)

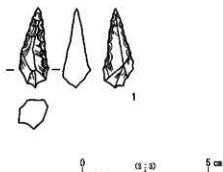
検出位置：Kう8、Kえ8グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.25m、短軸約1.15mのややいびつな円形を呈し、主軸方位はN-92°-Eを指す。断面形態：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約15cmである。覆土：暗褐色土 (10YR3/3) の単層であった。遺物出土状況：覆土中から黒曜石製石鏃が1点出土した。

遺物 (第35図、第6表)：35-1は黒曜石製石鏃の未製品である。時期：帰属時期は不明である。

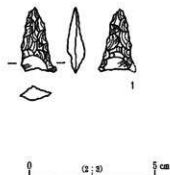
(26) 26号土坑

遺構 (第33図)

検出位置：Kい8、Kう8グリッド。重複関係：5号住居址に切られ、27号土坑を切っている。平面形態：長軸約1.15m、短軸約0.95mのややいびつな楕円形を呈し、主軸方位はN-94°-Eを指す。断面形態：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約15cmである。覆土：暗褐色土 (10YR3/3) の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。



第34図 24号土坑址出土遺物実測図



第35図 25号土坑址出土遺物実測図

(27) 27号土坑

遺構 (第37図)

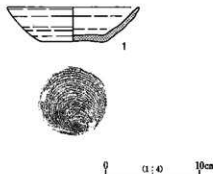
検出位置：Kい8、Kう8グリッド。重複関係：5号住居址と26号土坑に切られる。平面形態：5号住居址と26号土坑に切られているため、詳細は不明である。断面形態：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約12cmである。覆土：暗褐色土（10YR3/3）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(28) 28号土坑

遺構 (第37図)

検出位置：Kう6グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約3.5m、短軸約1.95mの「L」字形を呈し、主軸方位はN-89°-Eを指す。断面形態：2段に掘り込められた皿状を呈し、検出面からの深さは約26cmである。覆土：暗褐色土（10YR3/3）の単層であった。遺物出土状況：覆土中から須恵器片と土師器片が十数点出土した。

遺物 (第36図、第4表)：36-1は須恵器坏である。底部に回転糸きり痕を残す。火葬がある。時期：出土遺物から古代の所産と考えられる。



第36図 28号土坑址出土遺物実測図

(29) 29号土坑

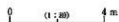
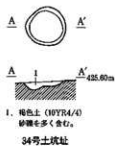
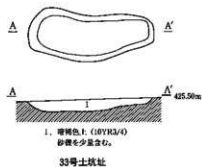
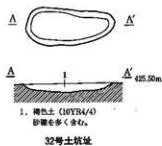
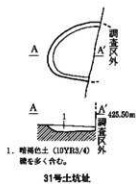
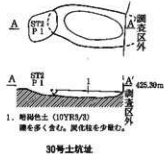
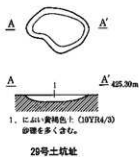
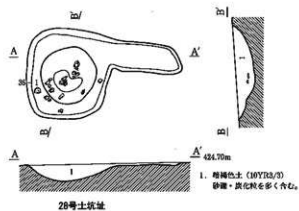
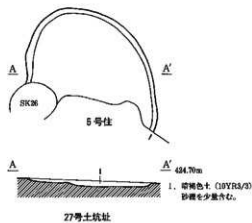
遺構 (第37図)

検出位置：Fく9グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.35m、短軸約0.9mのややいびつな楕円形を呈し、主軸方位はN-43°-Eを指す。断面形態：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約150cmである。覆土：にぶい黄褐色土（10YR4/3）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(30) 30号土坑

遺構 (第37図)

検出位置：Fか9グリッド。重複関係：調査区外未検出のため不明。平面形態：調査区外未検出のため不明。



第37図 土坑址実測図〈4〉

主軸方位はN-84°-Eを指すものと思われる。断面形態：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約15cmである。覆土：暗褐色土（10YR3/3）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(31) 31号土坑

遺構（第37図）

検出位置：Fか8グリッド。重複関係：調査区外未検出のため不明。平面形態：調査区外未検出のため不明。断面形態：緩やかな逆台形を呈し、検出面からの深さは約14cmである。覆土：暗褐色土（10YR3/4）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(32) 32号土坑

遺構（第37図）

検出位置：Fか7、Fき7グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.85m、短軸約0.8の楕円形を呈し、主軸方位はN-87°-Eを指す。断面形態：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約17cmである。覆土：褐色土（10YR4/4）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(33) 33号土坑

遺構（第37図）

検出位置：Fき7グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.65m、短軸約1.0mのややいびつな楕円形を呈し、主軸方位はN-57°-Eを指す。断面形態：やや深い皿状を呈し、検出面からの深さは約23cmである。覆土：暗褐色土（10YR3/4）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(34) 34号土坑

遺構（第37図）

検出位置：Fか7グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.85m、短軸約0.8mの円形を呈し、主軸方位はN-90°-Eを指す。断面形態：二段に掘り込まれた浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約16cmである。覆土：褐色土（10YR4/4）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

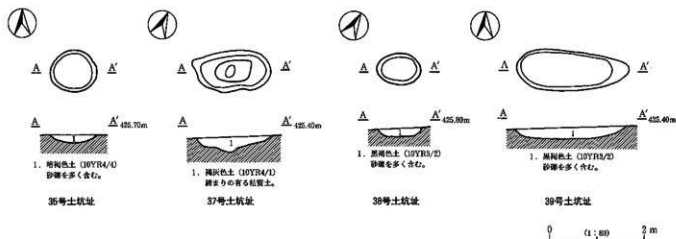
(35) 35号土坑

遺構（第38図）

検出位置：Fき6グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.95m、短軸約0.9mの円形を呈し、主軸方位はN-90°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約16cmである。覆土：褐色土（10YR4/4）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(36) 37号土坑

遺構（第38図）



第38図 土坑址実測図〈5〉

検出位置：Fき9、Fく9グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.65m、短軸約0.85mのややいびつな楕円形を呈し、主軸方位はN-73°-Eを指す。断面形態：浅い碗状を呈し、検出面からの深さは約30cmである。覆土：黒褐色土（10YR3/2）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(37) 38号土坑

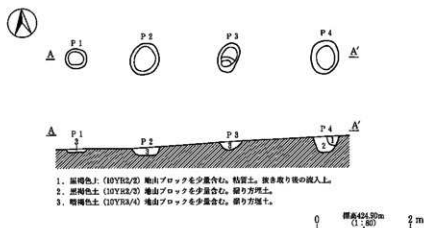
遺構（第38図）

検出位置：Fか6、Fか5グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.9m、短軸約0.7mのややいびつな楕円形を呈し、主軸方位はN-71°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約17cmである。覆土：黒褐色土（10YR3/2）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(38) 39号土坑

遺構（第38図）

検出位置：Fこ5、Kあ5グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.35m、短軸約0.85mの楕円形を呈し、主軸方位はN-93°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約23cmである。覆土：灰黄褐色土（10YR4/2）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。



第39図 1号掘立柱建物址実測図

第3節 その他の遺構・遺物

(1) 1号掘立柱建物址

遺構 (第39図)

検出位置：Kあ10、Fこ10グリッド。重複関係：なし。平面形態：調査区外未検出のため不明。柱穴：概ね逆台形を呈している。検出面からの深さは、P1では約8cm、P4では約32cmで、深さの違いは地形の傾斜に起因している。覆土：暗褐色土、黒褐色土によって被覆されていた。P4においては柱の抜き取り痕と思しき土層が確認された。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(2) 2号掘立柱建物址

遺構 (第40図)

検出位置：Fか9、Fか10、Fき10、Fき9グリッド。重複関係：P1が30号土坑を切っている。平面形態：2間×2間の総柱式の柱穴配置である。長軸3.8m、短軸3.6mを測る。主軸方位はN-0°-Eを指す。柱穴：逆台形もしくは楕形を呈している。検出面からの深さは12~56cmである。覆土：暗褐色土、黒褐色土によって被覆されていた。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(3) 3号掘立柱建物址

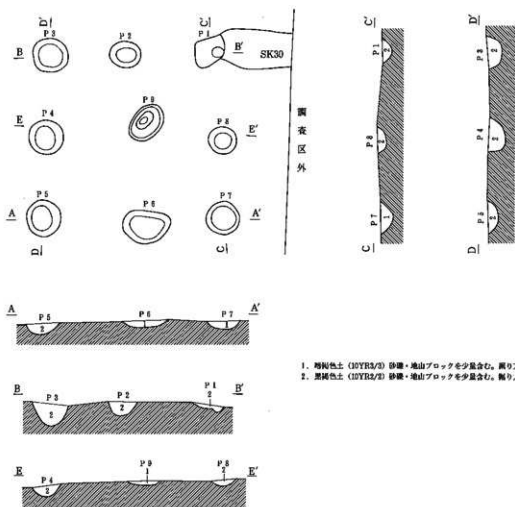
遺構 (第41図)

検出位置：Fき7、Fき8、Fく8、Fく7グリッド。重複関係：P7が攪乱を受けている。平面形態：2間×2間の側柱式の柱穴配置である。長軸3.8m、短軸3.6mを測る。主軸方位はN-34°-Eを指す。断面形態：逆台形もしくは楕形を呈している。検出面からの深さは20~36cmである。覆土：暗褐色土、黒褐色土によって被覆されていた。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

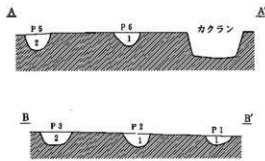
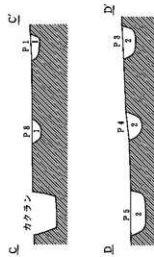
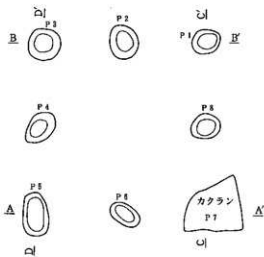
(4) 遺構外出土遺物

遺物 (第42図、第4・6表)

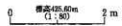
42-1は須恵器環である。底部に回転糸切り痕を残し、内面に火罨が観察できる。2は黒曜石製の石鏃である。



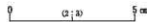
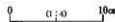
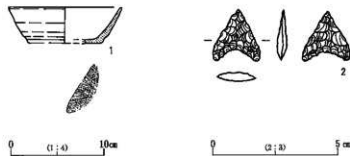
第40図 2号掘立柱建物址実測図



1. 暗褐色土 (10YR3/4) 砂礫を多く、地山ブロックを少量含む。傾り方同上。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂礫を多く、地山ブロックを少量含む。傾り方同上。



第41図 3号竪立柱建物址実測図



第42図 遺構外出土物実測図

第1表 掲載工器類表

〈 〉 推定値 () 残存値を示す。

型式 No	機種名	原機 No	類別	機種 分類	残存状	寸法			消 費 電 源		色 調	目 考	
						口径	長さ	高さ	外 置	内 置			
7-1	SH1	—	14	縦置型	標準	1/2	(18.0)	(12.0)	—	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 2.5Y/1灰色	
7-2	SH1	13	13	縦置型	両付付 標準	1/2	18.6	5.3	13.0	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5Y6/1灰色 内面) 2.5Y/1灰色 外) 2N/1灰色	底面回転へう磨り
7-3	SH1	6	6	縦置型	両付付 標準	1/2	—	(12.7)	(11.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	—	
7-4	SH1	1	1	縦置型	両付付 標準	1/4	(14.7)	4.0	(8.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5N/1灰色	底面静止歯切り
7-5	SH1	7	7	縦置型	両付付 標準	1/3	(14.0)	3.8	6.0	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5N/1灰色	内内面に火傷 底面回転歯切り
7-6	SH1	2	2	縦置型	両付付 標準	1/4	12.8	4.5	7.0	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5N/1灰色	底面静止歯切り
7-7	SH1	9	9	縦置型	両付付 標準	1/4	—	(2.0)	7.0	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5Y6/1灰色	内内面に火傷 底面回転歯切り
7-8	SH1	4	4	十層型	両付付 標準	1/4	11.8	4.0	5.0	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 2.5Y/16/1黄色	底面回転歯切り
7-9	SH1	3	3-1	十層型	両付付 標準	1/4	(13.0)	4.0	(7.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5Y/16/1黄色	
7-10	SH1	—	15	十層型	両付付 標準	1/4	(14.0)	3.1	(7.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5Y5/4C/1黄色 外) 2N/1灰色	底面静止歯切り
7-11	SH1	10	10	十層型	両付付 標準	1/4	(12.0)	(7.0)	—	自動給油) コクヨテ 潤滑) ヘラテ	コクヨテ	内内面) 5Y/16/1黄色 外) 2N/1灰色	
8-1	SH2	1	1	縦置型	両付付 標準	1/2	13.3	3.0	9.5	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内) 2.5Y/1灰色 外) 2.5Y/3/16/1黄色	底面回転へう磨り
8-2	SH2	—	8	縦置型	両付付 標準	1/2	(12.0)	3.8	(9.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5Y5/2/17/1黒	底面回転へう磨り
8-3	SH2	—	7	縦置型	両付付 標準	1/2	(13.0)	3.8	(9.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5Y/1/1灰色	底面回転へう磨り
8-4	SH2	—	10	縦置型	両付付 標準	1/2	(11.0)	4.1	(7.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 2.5Y/1/16/1黄色	内内面に火傷 底面回転歯切り
8-5	SH2	3	3	縦置型	両付付 標準	1/2	(15.0)	3.8	(7.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5Y/1/1灰色	底面回転歯切り
8-6	SH2	—	9	縦置型	両付付 標準	1/2	(11.0)	2.2	(8.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 2.5Y/1/1灰色	内内面に火傷 底面回転歯切り
8-7	SH2	4	4	縦置型	両付付 標準	1/2	(18.0)	4.1	(7.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 2.5Y/7/1灰白色	底面回転歯切り
8-8	SH2	—	12	十層型	両付付 標準	1/2	(16.0)	5.0	(8.0)	ヘラテ	黄色粘着 へうしぎ	内) 10Y/1/1灰色 外) 2.5Y/16/1C/1黄色	
8-9	SH2	—	11	十層型	両付付 標準	1/2	(18.0)	5.0	(8.0)	ヘラテ	へうしぎ	内内面) 2.5Y/15/17/1黄色	
8-10	SH2	—	13	十層型	両付付 標準	1/2	(19.0)	(8.0)	—	ヘラテ	へうしぎ	内内面) 2.5Y/14/1C/1黄色	
8-11	SH2	2	2	十層型	両付付 標準	1/2	(13.0)	(9.0)	—	ヘラテ	へうしぎ	内面) 2.5Y/16/1C/1黄色 外) 2.5Y/16/4/1黄色	
13-1	SH4	5	5	縦置型	両付付 標準	1/2	(14.7)	(12.0)	(7.5)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 2.5Y/1/1灰色	底面回転歯切り
13-2	SH4	—	11	縦置型	両付付 標準	1/2	(12.0)	(4.0)	(9.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 2.5Y/16/1灰色	内内面に火傷 底面回転歯切り
13-3	SH4	10	10	縦置型	両付付 標準	1/2	12.5	3.5	6.8	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 2.5Y/1/1灰色	内内面に火傷 底面回転歯切り
13-4	SH4	8	8	縦置型	両付付 標準	1/4	(16.0)	(5.0)	—	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 2.5Y/1/1灰色	
13-5	SH4	—	12	十層型	両付付 標準	1/2	(17.0)	(4.0)	—	コクヨテ	黄色粘着 へうしぎ	内) 2.5Y/1/1灰色 外) 2.5Y/16/4C/1黄色	
13-6	SH4	9	9	十層型	両付付 標準	1/2	—	(8.0)	3.6	ヘラテ	へうしぎ	内内面) 2.5Y/16/1C/1黄色	底付
13-7	SH5	—	20	縦置型	両付付 標準	1/5	—	(2.0)	(11.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 2.5Y/1/1灰色	底面回転へう磨り
13-8	SH5	2	2	縦置型	両付付 標準	1/2	—	(3.0)	(8.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 10G/1緑黄色	底面回転へう磨り
13-9	SH5	10	10	縦置型	両付付 標準	1/2	—	(3.0)	(9.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5G/1緑黄色	底面回転へう磨り
13-10	SH5	18	18	縦置型	両付付 標準	1/2	11.4	3.9	3.8	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 2.5Y/1/16/1灰色	底面静止歯切り
13-11	SH5	—	20	縦置型	両付付 標準	1/2	—	(3.0)	(5.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 5G/1緑黄色	
13-12	SH5	—	20	十層型	両付付 標準	1/2	—	(3.0)	(8.0)	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 10Y/12/3C/1黄色	
13-13	SH5	—	21	十層型	両付付 標準	1/2	—	(3.0)	(8.0)	コクヨテ	黄色粘着 へうしぎ	内) 5N/1灰色 外) 10Y/12/4C/1黄色	
13-14	SH5	—	21	十層型	両付付 標準	1/4	(11.0)	2.2	(4.0)	コクヨテ	コクヨテ	内内面) 5Y/1/17/1黄色	底面回転歯切り
13-15	SH5	1	1	十層型	両付付 標準	1/2	12.8	2.0	6.8	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内内面) 10Y/16/3C/1黄色 外) 2.5Y/16/4C/1黄色	
13-16	SH5	—	20	十層型	両付付 標準	1/2	—	(3.0)	(5.0)	コクヨテ	コクヨテ	内内面) 2.5Y/16/4C/1黄色	
13-17	SH5	14	14	十層型	両付付 標準	1/2	13.2	4.0	5.2	ヘラテ	黄色粘着 へうしぎ	内) 5N/1灰色 外) 10Y/12/1C/1黄色	底面回転歯切り
13-18	SH5	17-1	17-1	十層型	両付付 標準	1/4	13.4	4.1	6.4	コクヨコナテ	コクヨコナテ	内) 2.5Y/16/4C/1黄色 外) 2.5Y/16/4C/1黄色	底面回転歯切り

第2表 掲載上器類表示

〈 〉推定値 () 残存値を示す。

機軸 No	機軸名	機軸 No	機軸 種類	機軸 寸法	機軸 形状	機軸 寸法	機軸 寸法	軸径 (mm)		異 常 文 章		色 質	備 考
								内径	外径	外 表	内 面		
15-13	814	21	21	上脚部	環	口一底面 1/2	14.0	4.2	5.0	ロクロコナデ	青色麻理 ヘラミダキ	内) N1.5/0青色 外) 10YR7/3Cに白く染め色	底面磨削へり切 り
15-14	815	—	25	上脚部	環	口一底面 1/2	—	(3.0)	(5.0)	ヘラミダキ	青色麻理 ヘラミダキ	内) N1.5/0青色 外) 10YR6/3Cに白く染め色	底面磨削へり切 り
15-15	815	—	27	上脚部	環	口一底面 4/5	—	(3.0)	(4.0)	ヘラミダキ	青色麻理 ヘラミダキ	内) N1.5/0青色 外) 10YR6/3Cに白く染め色	底面磨削へり切 り
15-16	816	19	19	上脚部	環	口一底面 4/5	—	(2.0)	5.6	ヘラミダキ	黄色麻理 ヘラミダキ	内) N1.5/0青色 外) 10YR6/3Cに白く染め色	底面磨削へり切 り
15-17	815	7	7	上脚部	環	口一底面 1/4	0.40	(5.0)	—	ロクロコナデ	黄色麻理 ヘラミダキ	内) N1.5/0青色 外) 10YR6/3Cに白く染め色	底面磨削へり切 り
15-18	815	—	24	上脚部	環	口一底面 1/2	(2.0)	(4.0)	—	ロクロコナデ	黄色麻理 ヘラミダキ	内) N1.5/0青色 外) 10YR6/3Cに白く染め色	底面磨削へり切 り
15-19	815	—	23	上脚部	環	口一底面 1/2	(2.0)	(4.0)	—	ヘラミダキ	青色麻理 ヘラミダキ	内) N1.5/0青色 外) 10YR6/3Cに白く染め色	底面磨削へり切 り
15-20	815	6	6	上脚部	環	口一底面 1/2	(1.0)	4.4	—	ロクロコナデ	青色麻理 ヘラミダキ	内) N1.5/0青色 外) 10YR6/3Cに白く染め色	底面磨削へり切 り
15-21	815	—	28	上脚部	環	口一底面 1/2	(1.0)	(3.0)	(6.0)	磨削ヘラミダキ	磨削ヘラミダキ	内) N1.5/0青色 外) 10YR6/3Cに白く染め色	底面磨削へり切 り
15-22	815	12	12	上脚部	環	口一底面 1/2	(2.0)	(3.0)	—	コナデ	コナデ	内) N1.5/0青色 外) 10YR6/3Cに白く染め色	底面磨削へり切 り
15-1	816	—	29	底面部	環	口一底面 1/2	—	(2.0)	—	ヘラミダキ	ヘラミダキ	内) 10YR6/3Cに白く染め色 外) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-2	816	4	4	底面部	環	口一底面 1/4	(17.0)	(2.0)	—	ヘラミダキ	ヘラミダキ	内) 10YR6/3Cに白く染め色 外) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-3	816	—	21	底面部	環	口一底面 1/4	(12.0)	2.8	(0.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	内面に火傷 痕跡認めらる
15-4	816	6	6	底面部	環	口一底面 1/4	(12.0)	3.7	(0.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	内面に火傷 痕跡認めらる
15-5	816	15	15	底面部	環	口一底面 1/4	(12.0)	3.8	(7.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-6	816	1	1	底面部	環	口一底面 1/4	(14.0)	3.8	(7.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-7	816	14	14	底面部	環	口一底面 1/4	(12.0)	(2.0)	—	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) N1.5/0青色 外) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-1	817	2	2	底面部	環	口一底面 1/2	31.2	2.0	—	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色 外) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-1	817	—	4	底面部	環	口一底面 1/2	(13.0)	3.1	(7.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	内面に火傷 痕跡認めらる
15-2	817	—	3	底面部	環	口一底面 1/2	13.6	7.0	2.6	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-4	817	—	6	底面部	環	口一底面 1/2	(13.0)	3.3	(8.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色 外) 10YR6/3Cに白く染め色	底面磨削へり切 り
15-5	817	—	6	底面部	環	口一底面 1/4	(12.0)	4.1	(5.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-1	818	26	26	底面部	環	口一底面 2/3	15.0	2.9	—	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-2	818	28	28	底面部	環	口一底面 1/4	(13.0)	(2.0)	—	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色 外) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-3	818	—	139	底面部	環	口一底面 1/5	(13.0)	(2.0)	—	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-4	818	76	76	底面部	環	口一底面 1/4	(15.0)	(1.0)	—	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色 外) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-5	818	133	133	底面部	環	口一底面 1/3	5.5	2.0	—	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-6	818	14	14	底面部	環	口一底面 1/2	(5.0)	4.4	12.0	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 10YR6/3Cに白く染め色 外) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-7	818	15	15	底面部	環	口一底面 1/2	16.2	7.3	11.5	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-8	818	30	30	底面部	環	口一底面 1/4	(12.0)	4.0	(3.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色 外) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-9	818	44	44	底面部	環	口一底面 1/3	—	(2.0)	(11.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-10	818	106	106	底面部	環	口一底面 1/2	(12.0)	4.8	(0.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-11	818	19	19	底面部	環	口一底面 1/2	(4.0)	4.5	(12.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-12	818	6	6	底面部	環	口一底面 2/3	14.0	5.9	9.0	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-13	818	116	116	底面部	環	口一底面 2/3	15.8	5.0	10.0	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-14	818	1	1	底面部	環	口一底面 1/2	(14.0)	4.2	(7.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-15	818	2	2	底面部	環	口一底面 1/2	(12.0)	2.6	(6.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-16	818	101	101	底面部	環	口一底面 1/2	(12.0)	3.9	7.0	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-17	818	9	9	底面部	環	口一底面 1/2	(13.0)	4.0	(7.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-18	818	18	18	底面部	環	口一底面 2/3	12.5	4.3	5.5	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	底面磨削へり切 り
15-19	818	19	19	底面部	環	口一底面 1/2	(12.0)	5.7	(6.0)	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内) 7.5YR5/2黄褐色	内面に火傷 痕跡認めらる

第3表 掲載土器類表

〈 〉推定値 () 残存値を示す。

図録 No.	遺物名	発掘 No.	発掘 No.	群別	出所 分類	残/瓦	径長 (mm)		製 造 文 様		色 調	備 考	
							口径	底径	底径	底径			外 面
34-30	34B6	42	43	須古器	灰	口→底径 1/4	(13.0)	4.8	0.40	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY6/1灰色	底面破れあり
34-31	34B6	39	38-1	須古器	灰	口→底径 1/4	(13.0)	4.9	0.40	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY6/1灰色	底面破れあり
35-1	35B1	87	87	須古器	灰	口→底径 1/2	12.5	4.0	0.55	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY6/1灰色	底面破れあり
35-2	35B5	80	80	須古器	灰	口→底径 1/2	(14.0)	4.9	7.5	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY6/1灰色	底面破れあり
35-3	35B8	111	111	須古器	灰	口→底径 1/2	(12.0)	2.5	0.30	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY6/1灰+リーブ色	底面破れあり
35-4	35B8	—	136	須古器	灰	口→底径 1/4	(12.0)	4.0	0.70	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共に100A/100A+K色	底面破れあり
35-5	35B8	—	136	須古器	灰	口→底径 1/5	(13.0)	4.1	0.70	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY4/100A+リーブ色	底面破れあり
35-6	35B8	—	137	須古器	灰	口→底径 1/5	(14.0)	3.5	0.70	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共に100A/100A+K色	
35-7	35B8	—	136	須古器	灰	口→底径 1/5	(13.0)	4.5	0.0	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY6/1灰白色	
35-8	35B8	12	12	須古器	灰	口→底径 1/3	(13.0)	2.7	0.70	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY6/1濃灰色	底面破れあり
35-9	35B8	41	41	須古器	灰	口→底径 2/3	(13.0)	3.3	7.0	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY5/1灰色	底面破れあり
35-10	35B8	113	113	須古器	灰	口→底径 1/3	(13.0)	2.4	0.40	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共に60YR/1K色	底面破れあり
35-11	35B8	94	94	須古器	灰	口→底径 1/3	12.5	3.5	7.8	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY5/1灰色	底面破れあり
35-12	35B8	39	39	須古器	灰	口→底径 1/3	(14.0)	2.3	0.50	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY5/1濃灰色	底面破れあり
35-13	35B8	98	98	須古器	灰	口→底径 1/3	14.3	4.0	0.0	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY4/1灰色	底面破れあり
35-14	35B8	47	47	須古器	灰	口→底径 1/3	(14.0)	4.2	0.30	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共に10YR/1濃灰色	底面破れあり
35-15	35B8	28	28	須古器	灰	口→底径 1/3	(12.0)	2.5	0.0	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY4/1灰色	底面破れあり
35-16	35B8	30	30	須古器	灰	口→底径 2/3	12.5	2.7	7.0	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY5/1濃灰色	底面破れあり
35-17	35B8	21	21	須古器	灰	口→底径 1/4	(15.0)	2.8	0.30	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY6/1灰色	底面破れあり
35-18	35B8	34	34	須古器	灰	口→底径 1/3	(13.0)	2.8	0.70	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にN4/0灰色	内外共に欠損 底面破れあり
35-19	35B8	26	26	須古器	灰	口→底径 1/4	(13.0)	4.2	0.50	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY5/1濃灰色	底面破れあり
35-20	35B8	114	114	須古器	灰	口→底径 1/4	(15.0)	4.1	0.70	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY7/2濃灰色	底面破れあり
36-1	35B8	96	96	須古器	灰	口→底径 2/4	14.0	4.5	0.5	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY6/1灰色	外側に欠損 底面破れあり
36-2	35B8	27	27	須古器	灰	口→底径 1/3	(12.0)	4.2	0.0	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY6/1灰色	底面破れあり
36-3	35B8	25	25	須古器	灰	口→底径 1/3	(13.0)	2.5	0.70	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY7/1濃灰色	外側に欠損
36-4	35B8	81	81	須古器	灰	口→底径 2/4	13.7	3.8	7.0	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY6/1灰色	底面破れあり
36-5	35B8	55	55	須古器	土	口→底径 1/3	09.0	10.0	—	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY4/1灰色	
36-6	35B8	13	13	須古器	土	口→底径 1/4	09.0	11.0	—	口外ヨコナデ 脚部ナシ	口外ヨコナデ	内外共にSY7/1灰白色	
36-7	35B8	—	134	須古器	高台付 灰	底径1/4	—	(1.0)	11.0	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY5/1灰色	底面破
36-8	35B8	120	120	須古器	高台付 灰	底径1/4	—	(1.0)	9.5	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共に10YR/1濃灰色	底面破
36-9	35B8	—	131	須古器	高台付 灰	底径1/2 底径1/5	(12.0)	(4.5)	—	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内) 10YR/1濃灰色 外) 10YR/3濃灰色 底) 10YR/5濃灰色	底面破れあり
36-10	35B8	54	54	須古器	灰	口→底径 1/4	(8.0)	(4.0)	—	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY5/1灰色	底面破
36-11	35B8	20	20	十知器	灰	口→底径 1/3	14.0	4.5	7.0	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY5R/10C+10Y+リーブ色	底面破れあり
36-12	35B8	28	28-5	十知器	灰	口→底径 1/4	—	(3.0)	7.0	外ナシ	底面破れ へらナシ	内) SY6/1濃灰色 外) SY5/1濃灰色	底面へらナシ
36-13	35B8	122	122	土師器	灰	口→底径 1/3	(14.0)	4.2	(0.2)	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内) SY5R/10C+10Y+リーブ色 外) SY5R/10C+10Y+濃灰色	
36-14	35B8	58	58	土師器	土	底径1/3	—	(0.8)	10.5	へらナシ	へらナシ	内外共にSY5R/10C+10Y+濃灰色	
36-15	35B8	68	68	土師器	土	口→底径 1/4	09.0	0.0	—	脚部へらナシ	脚部へらナシ	内外共にSY5/10Y+濃灰色	
37-1	35B8	5	5	須古器	灰	口→底径 1/3	(13.0)	2.0	—	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にSY7/1灰白色	
37-2	35B8	9	9	須古器	高台付 灰	口→底径 1/3	(16.0)	2.5	(1.0)	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共に10YR/1濃灰色	底面破れあり
37-3	35B8	10	10	須古器	灰	底径	12.5	4.2	7.0	口外ヨコナデ	口外ヨコナデ	内外共にN4/0灰色	内外共に欠損 底面破れあり

第4表 掲載土器観察表 < > 推定値 () 残存値を示す。

掲載No.	遺物名	発掘No.	種別	形状・分類	残存度	法量 (m)			器 底 ・ 文 様		色 研	備 考	
						口径	高さ	底径	外 面	内 面			
20-4	磁器	11	31	底蓋部	坏	11→底蓋部 2/4	12.3	4.0	7.0	ロクロココナデ	ロクロココナデ	内外面? N5/6灰色	底面観察あり
20-5	磁器	1	1	土師器	坏	11→底蓋部 2/4	(13.0)	4.2	7.2	ヘラナデ	ヘラナデ	内外面? 7.5YR6/9棕色	底面観察あり
20-1	SK1	5	5	底蓋部	坏	1/2	19.8	5.3		ロクロココナデ	ロクロココナデ	内外面? N4/5灰色	
20-2	SK1	4	4	底蓋部	共有付 坏	11→底蓋部 1/2	(17.0)	6.0	11.0	ロクロココナデ	ロクロココナデ	内外面? 5Y5/6にふいご褐色	底面観察へつり
20-3	SK1	3	3	底蓋部	坏	11→底蓋部 1/2	(13.0)	3.5	7.0	ロクロココナデ	ロクロココナデ	内外面? 5Y5/6灰色	底面観察あり
20-4	SK28	1	1	底蓋部	坏	5/4	14.0	3.6	7.0	ロクロココナデ	ロクロココナデ	内外面? 10Y7R/3黄褐色	内外面に火傷 底面観察あり
40-1	陶器片一 群	—	1	底蓋部	坏	口→底蓋部 1/4	(2.0)	3.0	(7.0)	ロクロココナデ	ロクロココナデ	内外面? 2.5Y6/2灰褐色	内面に火傷 底面観察あり

第5表 掲載鉄器観察表 < > 推定値 () 残存値を示す。

掲載No.	遺物名	発掘No.	種別	形状・分類	残存度	法量 (m)			質 量 (g)	注 記	備 考
						長さ	幅	厚さ			
20-1	磁器	1	鉄線	子母	現存	(8.0)	(4.0)	(3.5)	120	NNTW SH08 No.02	
20-2	磁器	3	鉄器	輪軸	—	(13.3)	(1.3)	(1.3)	48	NNTW SH08 No.03	
20-3	磁器	3	鉄器	輪軸	—	(8.0)	(1.3)	(0.8)	15	NNTW SH08 No.04	

第6表 掲載石器観察表 < > 推定値 () 残存値を示す。

掲載No.	遺物名	発掘No.	種別	石 質	形状・分類	残存度	法量 (m)			質 量 (g)	注 記	備 考
							長さ	幅	厚さ			
10-1	磁器	4	磨石	安山岩	空存	12.5	10.2	3.5	600	NNTW SH05 No.4		
10-2	磁器	3	磨石	安山岩	空存	14.4	11.4	3.0	800	NNTW SH05 No.5		
10-3	磁器	2	磨石	安山岩	空存	12.5	11.4	4.2	800	NNTW SH05 No.2		
10-1	磁器	8	石鏝	チャート	磨削欠損	2.4	1.2	0.4	1.3	NNTW SH08 No.1011近		
10-2	磁器	2	磨石	安山岩	空存	12.4	5.2	4.4	405	NNTW SH08 No.3		
10-1	SK24	1	石鏝	尾雁石	一部欠損	3.1	1.1	1.1	2.4	NNTW SK24 一拵	木製柄	
10-1	SK25	1	石鏝	尾雁石	一部欠損	3.1	1.5	0.6	1.1	NNTW SK25 一拵	木製柄	
40-2	陶器片一 群	2	石鏝	尾雁石	空存	2.0	1.3	0.3	0.7	NNTW 調査区 新		

第V章 総括

本遺跡の発掘調査によって検出された遺構は奈良時代から平安時代にいたる住居址8棟、掘立柱建物址3棟、土坑38基などであった。限られた調査区でありながらも多くの遺構が検出されたことによって、周辺は密度の濃い遺構分布を示すものと思われる。

寺浦遺跡はこれまでの分布調査、本調査及び試掘調査によって縄文時代から平安時代にかけての集落遺跡と考えられていた。古墳～平安時代にかけては検出遺構数も多く、この遺跡の主体的な時期を示すものとして理解されている。本寺浦遺跡を内包する中之条遺跡群は大字中之条地区に広がる遺跡群で、古墳時代後期から平安時代までが主体的な時期であることから、広範囲にわたって当該期の集落が広がっていたことが想定される。以下、今回の調査成果を概観する。

まずあげられるのが8号住居址である。長軸5.8m、短軸5.5mの竪穴住居址で、今回の調査区をはじめ、周辺で確認された奈良～平安時代の住居址では最大規模を誇る。掘り込みが深いことや、当初北側に造られたカマドが後に東側に造りかえられていたことも特徴的である。周辺で確認されている当該期の住居址が比較的小規模で、カマドを持たないものも有ることを考えると、本住居址の特異性が際立っている。集落構成員のなかでも中心的存在であった人物が居住していたことも考えられよう。

直接的に8号住居址との関連を確認することは出来ないが、覆土中から出土した、土器・鉄器・獣骨などの遺物群も注目される。土器類では多くの土師器・須恵器が出土したが、特に注目されるのは円面硯や高台付杯の底部を用いた転用硯である。一箇所から3点もの硯が出土した例は坂城町では存在せず、周辺に書に通じた人物が居住していたか、文書作成に関する施設が存在していたことが想定されよう。鉄器は手斧と鍔鉾が出土した。これらは建築に関わる道具であるが、同じ場所から3点も出土したことから、工人などを集約的に管理していた場所であったことが考えられる。獣骨は、未鑑定であるが馬骨であると思われる。歯の部分だけが散乱した状態で出土したので詳細は不明であるが、周辺で馬の飼育・管理が行われていたであろう。

過去の調査でも確認されているが、今回の調査でも掘立柱建物址が3棟検出された。過去の調査と同様に時期の決定は出来なかったが、高床倉庫などの施設が周辺に展開していたことが想起される。

以上の調査成果から、本調査区周辺に公的な施設か有力な豪族の居住・経営施設が存在していた可能性が指摘できそうである。坂城消防署建設に先立つ調査でも掘立柱建物址が数多く検出され、同様の可能性が指摘されている。周辺地域の調査を含めて今後の課題となろう。

最後に、本寺浦遺跡と隣接する上町遺跡もほぼ同様の時期の遺跡である。今回の調査成果を踏まえて、両遺跡の時期的や性格的な問題を比較検討して、谷川・御堂川水系の古代社会の環境を分析する必要がある。また、本調査地点から北に約1km離れた場所に所在する開飲遺跡や、宮上遺跡も小河川付近に展開する集落址である。河川をはじめとする自然環境と、古代集落の関係についても科学的分析を行っていく必要がある。

写 真 图 版



調査前状況（北東より）



調査区検出状況（北東より）



調査区検出状況（西より）



調査区検出状況（東より）



調査区検出状況（北東より）



1号住居址（南より）



1号住居址カマド（西より）



2号住居址（南より）



2号住居址カマド (南より)



3号住居址 (南より)



3号住居址カマド検出状況 (南より)



3号住居址カマドセクション (南西より)



3号住居址カマド (南より)



4号住居址 (南西より)



4号住居址カマド検出状況 (南より)



4号住居址カマドセクション (南西より)



4号住居址カマド (南より)



4号住居址遺物出土状況 (南西より)



5号住居址 (西より)



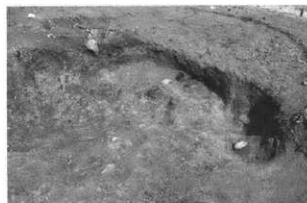
5号住居址カマド検出状況 (西より)



5号住居址カマド (西より)



5号住居址カマド脇 (西より)



5号住居址カマド輪遺物出土状況 (北西より)



5号住居址遺物出土状況 (南西より)



6号住居址(北より)



6号住居址(西より)



7号住居址(西より)



7号住居址カマドセクション(南西より)



7号住居址カマド(西より)



8号住居址(南より)



8号住居址(西より)



8号住居址遺物出土状況(南より)



8号住居址掘り方完掘状況 (南より)



8号住居址北カマド (南より)



8号住居址東カマド (西より)



8号住居址遺物出土状況 (北西より)



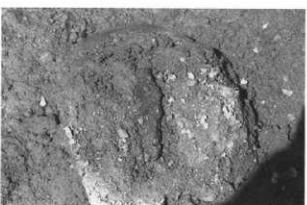
8号住居址獣骨出土状況 (南より)



8号住居址遺物出土状況 (北より)



8号住居址遺物出土状況 (南より)



8号住居址遺物出土状況 (南より)



1号土坑完掘状況（南より）



1号土坑遺物出土状況（南西より）



1号土坑集石検出状況（北東より）



28号土坑完掘状況（南より）



1号掘立柱建物址検出状況（北より）



1号掘立柱建物址完掘状況（北より）



2号掘立柱建物址検出状況（南より）



2号掘立柱建物址完掘状況（南より）



3号独立柱建物址検出状況（南西より）



3号独立柱建物址完掘状況（南西より）



掘削状況



作業風景



作業風景



作業風景



埋め戻し状況（北東より）



調査参加者



7-1



7-2



7-6



7-8

1号住居址出土土器(1:3)



9-1



9-2



9-3



9-4



9-5



9-6



9-7

2号住居址出土土器(1:3)



13-3



13-6

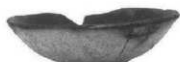
4号住居址出土土器(1:3)



15-4



15-9



15-11



15-12



15-13



15-20



15-21

5号住居址出土土器 (1:3)



16-1



16-2



16-3

5号住居址出土石器 (1:3)



18-7

6号住居址出土土器 (1:3)



20-1



20-2



20-3

7号住居址出土土器 (1:3)



24-1



24-10



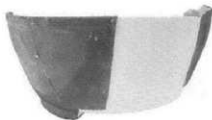
24-10



24-5



24-6



24-7



24-11



24-12



24-13

8号住居址出土土器① (1:3)



24-18



25-1



25-3



25-9



25-11



25-13



25-16



25-17



25-18



26-1



26-7



26-8



26-9



26-10



26-11



27-2



27-3



27-4



27-5

8号住居址出土土器②(1:3)



28-1



28-2



28-3

8号住居址出土石器 (2:3)



29-1 (1:1)



29-2 (1:4)

8号住居址出土石器



8号住居址出土兽骨



31-1



31-2



31-3

1号土坑出土石器 (1:3)



24号土坑出土石器 (2:3)



25号土坑出土石器 (1:1)



28号土坑出土石器 (1:3)



調査区出土石器 (1:1)

報告書抄録

ふりがな	てらうらいせきよん
書名	寺浦遺跡IV
副書名	長野県埴科郡坂城町(株)しまむら店舗建設事業に係る緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第36集
編著者名	赤池 利博・時信 武史
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2010年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
寺浦遺跡IV	埴科郡坂城町大字中之条	20521		36°26'41"	138°11'36"	2009年5月20日～ 2010年3月31日	1,861㎡	株式会社しまむらによる店舗建設事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寺浦遺跡IV	集落址	縄文～平安	竪穴住居址 掘立柱建物址 土坑址	8棟 3棟 38基 土師器・須恵器・鉄器・石器・灰骨	奈良～平安時代の集落址の調査

坂城町埋蔵文化財調査報告書

	『開飲製鉄道跡-第1次調査報告書』	1977
	『開飲製鉄道跡-第2次調査報告書』	1978
	『東裏道跡』	1983
	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』(概報)	1993
	『南条道跡群 塚田遺跡』	1993
第1集	『南条道跡群 東裏道跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条道跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊饗堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『戊久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開飲道跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東道跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集	『豊饗堂遺跡Ⅲ』	2004
第24集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2005』	2006
第27集	『込山道跡群 込山C遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2006
第28集	『込山道跡群 込山D遺跡』	2007
第29集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2006』	2007
第30集	『南条道跡群 青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2007
第31集	『開飲道跡Ⅳ』	2008
第32集	『町横尾遺跡Ⅱ』	2008
第33集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2007』	2008
第34集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅳ・Ⅴ』	2009
第35集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2008』	2009
第36集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅳ』(木書)	2010

坂城町埋蔵文化財調査報告書第36集

中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅳ

発行日	2010年3月31日
編集者	坂城町教育委員会
	〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1
	TEL 0268 (82) 1109
印刷者	信毎書籍印刷株式会社
	〒381-0037 長野県長野市西和田1丁目30番3号
	TEL 026 (243) 2105

